

国土交通政策研究 第47号

団塊ジュニア世代の住宅ニーズに関する調査研究

2005年3月

国土交通省国土交通政策研究所
主任研究官 長野 幸司
主任研究官 奥原 崇
研 究 官 諸岡 昌浩

はじめに

本調査研究は、今後新たに住宅市場に対して大きなインパクトを及ぼすと考えられる団塊ジュニア世代について、団塊世代及び団塊ジュニア世代の人口構成上のウェイト等の世代特性をそれぞれ整理するとともに、特に、団塊ジュニア世代について彼らの住宅に対する意識を探るアンケート調査を実施し、団塊ジュニア世代の住宅に対する考え方を調査したものである。

調査研究に当たっては、団塊ジュニア世代を対象とした土地・住宅に関するアンケート調査の設計段階から、東京ガス（株）都市生活研究所の方々に関わっていただき、貴重なアドバイスをいただくとともに様々な面でご支援をいただいた。また東京大学の松村秀一助教授からは、団塊ジュニア世代の意識等について、大所高所からのお話をいただいた。ここに心より感謝申し上げたい。

なお、本報告書について事実の誤認や不十分な理解などお気づきの点があれば、ご指摘いただければ幸いである。

2005年 3月

国土交通省国土交通政策研究所

主任研究官 長野 幸司

主任研究官 奥原 崇

研究官 諸岡 昌浩

要旨

H13年3月に閣議決定された第八期住宅整備五箇年計画（国土交通省住宅局）においては、市場を重視した施策の基本的方向、多様なニーズへの対応、少子社会を支える居住環境の整備などをうたっている。そのため、団塊世代に次いで総人口に占める割合が大きく、今後の住宅市場のマジョリティを占め、かつこれからの子育てを行う可能性が高い『団塊ジュニア世代』の居住環境に対するニーズに対応して、住宅政策の今後の方向性を考えていく必要がある。

そこで本研究では、この団塊ジュニア世代の住宅に関するニーズを把握するため、団塊世代及び団塊ジュニア世代の世代特性をそれぞれ整理するとともに、特に、団塊ジュニア世代について彼らの住宅に対する意識を探るアンケート調査を実施し、あわせて住宅と関連の深い事項を中心とした団塊ジュニア世代のライフスタイルに関するアンケート調査を実施した。

団塊世代（1947年～1949年生まれ）の特徴は、以下のことが挙げられる。

- ・ 人口構成上他の世代に比べて突出した割合を占める
- ・ 社会人になるタイミングで大都市に集中
- ・ 若年世代に比べて豊富な金融資産を保有
- ・ ライフステージに応じた住み替えにより住宅市場に大きなインパクト

団塊ジュニア世代（1973年～1980年生まれ）の特徴は、以下のことが挙げられる。

- ・ 人口構成上団塊世代に次ぐ割合を占める
- ・ 団塊世代に比べて首都圏生まれが多い
- ・ 住宅取得資金の大半を住宅ローンや親からの援助等に頼らざるを得ない

団塊ジュニア世代の住宅に対するニーズに関する調査を実施した。その結果、団塊ジュニア世代と一括りにいっても、性別、配偶者の有無、子供の有無、親と同居別居等、家族類型によって住宅に対する価値観や意識が多様であり、彼らの住宅に対するニーズは多様かつ複雑であることが改めて認められた。

しかしながら、ある程度の「傾向」は確認された。年収と住宅変更内容では、たとえば独身男性は収入が多いほど持家への変更を希望するが、独身女性は賃貸住宅の借り換えを予定している者が過半を占めている。また、転居経験のある者の移動実態と居住地域の志向をみると、郊外部に居住していた独身者は都心寄り地域への転居を選択する例が多く、独身者と家族を持つ世帯を比較すると、家族をもつ世帯のほうが同距離圏内での移動の割合が高く、「地縁」を重視する傾向がみられた。

団塊ジュニア世代の住宅に対する多様な価値観や意識に対応して、住宅市場においても、多様な選択肢の提供が今後一層求められよう。

キーワード：住宅市場、団塊ジュニア、地縁重視、多様な価値観

Survey Research on the Housing Needs of the *Dankai* Juniors

Abstract

The trends of the *dankai* generation (the post-war baby-boomers born between 1947 and 1949) have long been a focus of attention in the housing market. Their impact on the market will gradually lessen as they are reaching retirement. The authors focus on the *dankai* juniors, born between 1973 and 1980, who occupy a large percentage of the total population after the *dankai* generation. The juniors have started thinking seriously about their housing needs. Their behavior trends will affect the directions of housing policies.

In this study the authors examine the characteristics of these two generations and conduct two questionnaire surveys (one concerning *dankai* juniors' opinions about housing, and the other about their lifestyle) in an attempt to better understand the housing needs of the juniors.

The *dankai* generation:

- Occupies a significantly large share in the total population
- Moved in large numbers from rural areas to Tokyo and other large cities to work
- Own many more financial assets than the younger generation
- Have imposed a great impact on the housing market through relocation depending on their life stage

The *dankai* juniors, on the other hand:

- Are the second-largest population group after the *dankai*
- Have a higher proportion of members who were born in metropolitan regions than do the *dankai*
- Have to rely on housing loans and support from parents for most of their housing purchase expenses

A questionnaire survey of *dankai junior* housing needs revealed that they have diverse values and opinions about housing, depending on gender, marital status, presence or absence of children, whether or not they live with their parents, and type of family. These values and opinions are reflected in their diverse and complex housing needs.

Certain *dankai junior* trends are observed. Single males tend to want to purchase a house as their income increases, while more than half of the single females plan to move to another rented apartment or house. When *juniors* with house-moving experience were questioned about where they had moved, it was revealed that while singles living in the suburbs tended to move to areas closer to central Tokyo, those with families tended to have established closer ties with the community and thus

preferred to continue to live in the same area.

These opinions and values of the *juniors* should be utilized to enable the housing market to offer more housing options to meet their diverse needs.

Key Words: housing market, *dankai* juniors, emphasis on community relations, diversified values

目 次

第Ⅰ部 団塊ジュニア世代の住宅ニーズ

第1章 研究の目的・背景.....	1
第2章 団塊世代及び団塊ジュニア世代とは	2
1. 団塊世代の特徴.....	2
2. 団塊ジュニア世代の特徴	4
第3章 団塊ジュニア世代の住宅ニーズ.....	6
1. 住宅等に関するアンケート調査	6
2. その他.....	11
おわりに.....	13

第Ⅱ部 団塊ジュニア世代のライフスタイル

第1章 団塊ジュニアのプロフィール	15
1. 世帯の構成.....	15
2. 社会的属性(職業と収入)	19
第2章 親との関係	23
1. 別居者の親との関係	23
2. 同居者の親との関係	26
3. 将来の親との関係.....	27
4. 土地・建物の相続.....	28
第3章 団塊ジュニアの暮らし方、考え方.....	30
1. 休日の過ごし方.....	30
2. 暮らし方.....	32
3. 自らの世代イメージ	33
参考文献.....	35
参考資料「団塊ジュニアの住宅に関する調査」及び調査結果.....	37

第 I 部

団塊ジュニア世代の住宅ニーズ

第 I 部 団塊ジュニア世代の住宅ニーズ

第 1 章 研究の目的・背景

「平成 15 年住宅・土地統計調査¹」によると、わが国の住宅戸数は約 5,387 万戸、総世帯数は 4,722 万世帯となっている。わが国では第二次世界大戦後、戦災等の影響もあって、住宅戸数が世帯数を下回った状態にあったため、住宅政策は、住宅を充足させるための持家政策と公営・公団住宅の供給を柱に展開されてきた。昭和 43 年に住宅総数が総世帯数を上回った以後も、持家取得を支援するための優遇税制や住宅金融公庫等の公的機関による融資制度、公営・公団住宅の供給といった施策が引き続きとられてきた。そして、近年では、ストックを重視し住宅の質を向上させることが課題となっている。

また、従来は、住宅市場においては、総人口に占める割合が大きく、市場に及ぼすインパクトの大きい団塊世代を含む、どちらかといえば中高年層の動向が注目されていた。しかし、彼らは現在、既に 50 歳代後半を迎え、給与所得者の多くは定年退職間近の時期にさしかかっており、持家を保有する意思のあった者の多くは、既に持家の取得を済ませていると考えられる。その後、彼らが住宅に対してとる可能性のある行動としては、①現在住んでいる家の建替または改修、②買い替え・転居等が考えられる。中には、定年退職後に退職金を用いて、新たなライフステージに対応して、新規に持家の取得に動く者もいると考えられる。団塊世代は、若年世代や中年世代に比べて相対的に多くの金融資産を保有していることから、彼らを対象として一次取得を支援する必要性は徐々に薄れてくると考えられる。

住宅政策は、今後、新たに住宅市場に対して大きなインパクトを及ぼすと考えられる世代にも目を向けていく必要性が一層高まってくると考えられる。具体的には、団塊世代に次いで総人口に占める割合が大きく、これから居住する住宅について真剣に検討を進めると考えられる現在 30 歳前後の団塊ジュニア世代の動向に対応して、住宅政策の今後の方向性を考えていく必要があるのではないか。このような問題意識の下、本研究では、彼らの社会的な位置付け等の実態面と、彼らの意識等を中心に調査・考察を進めた。

そこで本研究では、まず、団塊世代の特徴として、年齢別人口構成上のウェイトや首都圏への移動状況、所得・資産の現状、住宅に対する意識について調査・整理を行った（第 2 章 1）。次に、団塊ジュニア世代についても同様の調査・整理を行った（第 2 章 2）。特に、住宅に対する意識については、経済・社会状況の違いや価値観の多様化等を反映して、団塊世代と団塊ジュニア世代を含む若年世代では大きく異なっている可能性があるという認識の下、本研究では、団塊ジュニア世代の住宅に関する意識を探るためのアンケート調査を行った（第 3 章）。

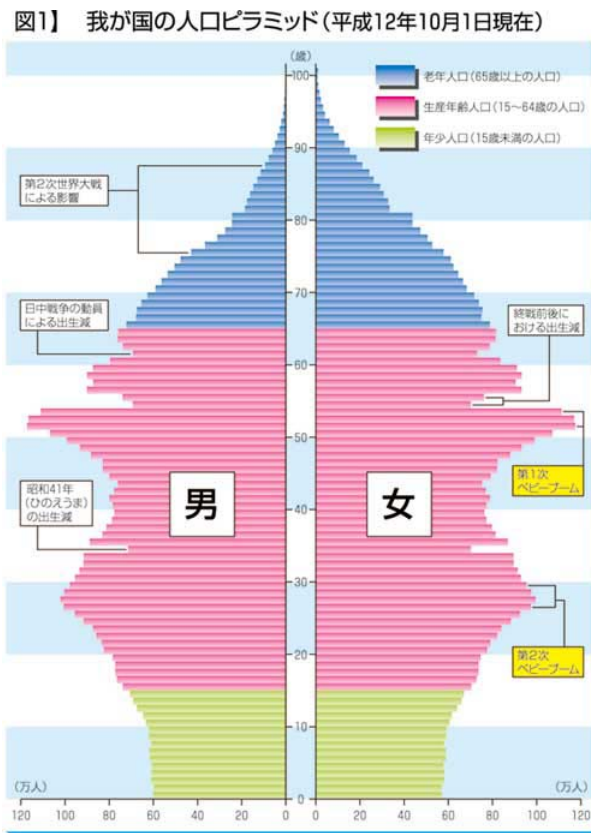
¹ 総務省（2004）

第2章 団塊世代及び団塊ジュニア世代とは

1. 団塊世代の特徴

(1) 年齢別人口構成上のウェイト

一般的には、わが国で 1947～49 年の間に誕生した人々を総称して、団塊世代という。これは、わが国の人口構成上、彼らが他の世代に比べて突出した割合を占めていることによる(図1参照)。わが国の総人口は、約 1 億 2300 万人²であり、彼らはそのうち、約 8% を占めている。後述する団塊ジュニア世代(第2次ベビーブーマー世代)との対比で、第1次ベビーブーマー世代とも呼ばれる。団塊世代の世帯数は約 550 万世帯³であり、全世帯数 4,680 万のうち、約 12% を占めている。



出典：平成12年国勢調査報告 第1次基本集計結果 我が国の人口ピラミッド

(2) 首都圏におけるウェイト

団塊世代は、社会人になるタイミングで、大都市部へ集中する傾向にあった。

1950年(昭和25年)の1都3県(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)の0～4歳人口は、全国の0～4歳人口の約15%⁴であった。この25年後、1975年(昭和50年)の同

² 平成12年国勢調査報告の数値。

³ 平成12年国勢調査報告の数値。(50～54歳の世帯主数)

⁴ 昭和25年国勢調査報告のデータを基に算定。

地域の25～29歳人口は全国と同世代の人口の約28%⁵に上昇しており、団塊世代の首都圏集中が見てとれる。

こうした首都圏への人口集中の実態は、1961～73年における「非大都市圏から大都市圏⁶」への移動が、毎年100万人を超えており、団塊世代が21～23歳ごろの1970年がそのピーク（約126万人）であったことから推測できる⁷。

(3)所得・資産の現状

団塊世代を含む50歳代の世帯主は、若年世代に比べて豊富な金融資産を有している。

金融広報中央委員会が実施した「家計の金融資産に関する世論調査」によると、平成13年時点の50歳代の1世帯当たり世帯主貯蓄保有額は、約1,560万円となっている。20歳代の平均が約280万円、30歳代の平均が約690万円であることに比べると、豊富な貯蓄を有している。これは、年功序列型賃金体系、子育ての終了、住宅ローン返済の終了等の要因によるところが大きいと思われる。

(4)住宅に対する意識

団塊世代は、ライフステージに応じて、積極的に住み替えをしてきた世代である。彼らの多くは、土地等の資産価値が右肩上がりでも上昇していた時代には、世帯を構えると、常により快適で広い住居を求めて、「賃貸住宅・アパート・マンション→分譲アパート・マンション→戸建て持家」というような順序で住み替えを行ってきた。彼らは、こうした住み替え行動により、住宅市場に多大なインパクトを与えてきた。住宅ストック数をみると、団塊世代の住み替え行動と軌を一にして、彼らが20歳前後の1968年（昭和43年）には約2,600万戸だったのが、彼らが40歳前後の昭和63年には約4,200万戸、50歳前後の1998年（平成10年）には約5,000万戸と急増している。

また、彼らは、賃貸よりも持家、マンションよりも戸建て住宅を望む傾向が強かった。現在、50歳代以上の持家比率は、おおむね80%となっている。

団塊世代が望んでいる老後の生活や住まい像については、東京ガス(株)都市生活研究所が2003年8月、首都圏在住の50歳以上の持家一戸建て住宅に住む者を対象に実施した調査⁸によると、団塊世代は、ライフスタイルとして、地域社会でのんびりと快適な暮らしを望んでいる。老後の生活環境としては、「治安」、「利便性」、「介護などの行政サービス」等を重視している。また、男性の場合、自然環境や仕事のしやすさを重視し、女性は、実用的な場所を望んでいる。住まいに望む点としては、日当たりの良さや防犯性等を、今の住まいに対する不安点としては、階段の昇降や住宅のメンテナンス等を挙げている。

また、老後は、子供と同居するよりもむしろ、「近くに住むこと（近居）」を望んでいる傾向が表れてきている。最近では、「二世帯近居」という言葉が使われはじめている。こうしたニーズに応えるものとして、都市基盤整備公団では、二世帯近居希望者を対象とした「近居優遇制度」を設けており、人気があるという⁹。また、財産を残すことについては、

⁵ 昭和50年国勢調査報告のデータを基に算定。

⁶ 大都市圏とは、東京圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）、中京圏（岐阜、愛知、三重）及び阪神圏（京都、大阪、兵庫）であり、非大都市圏はそれ以外である。

⁷ 国立社会保障・人口問題研究所（2003）人口統計資料集 表11-2 類型別府県間移動数による。ちなみに、平成13年の非大都市圏から大都市圏への移動人口は約66万人である。

⁸ 東京ガス（2003）

⁹ 日本経済新聞平成16年5月17日付け記事参照。

財産を積極的に残して子供に援助したいとは考えていないようである。

2. 団塊ジュニア世代の特徴

次のように、団塊ジュニア世代には2つの考え方があるが、本研究では、今後住宅市場に大きなインパクトを及ぼすと考えられる世代に着目してその住宅ニーズを調査するものであり、あまりに狭い世代を対象とすることは適当でない。したがって、本研究では、ロの考え方に従い、第一義的には、1973～80年生まれの世代を「団塊ジュニア世代」として捉えることとする。なおデータとしては、制約からこの世代に限定したデータを取れない場合もあり、その前後に出生したものも含める場合もある。

イ 1971～74年生まれの世代

一般的に、わが国で1971～74年の間に誕生した人々を総称して、団塊ジュニア世代ということが多い。これは、この間、毎年200万人以上の出生数があったこと、また、後述のとおり、わが国の人口構成上、団塊世代に次ぐシェアを占めていることによる。第2次ベビーブーマー世代とも呼ばれる。

ロ 1973～80年生まれの世代

イの考え方で団塊ジュニアを定義した場合、彼らの両親が団塊世代よりも上の世代であることが多いという現実がある。このため、両親のいずれかが団塊世代である者の割合がその年の出生数の半数を超える世代を総称して真性団塊ジュニア世代とする考え方¹⁰がある。この考え方に従った場合、1973～80年生まれの世代が、団塊ジュニア世代ということになる。

(1) 年齢別人口構成上のウェイト

団塊ジュニア世代は、わが国の総人口の中で、団塊世代に次ぐ割合を占めている。2000年現在で、総人口約1億2,690万人に対し、団塊世代は約1,040万人¹¹で約8.2%を占めているのに対し、団塊ジュニア世代は約980万人¹²で約7.7%を占めている。団塊ジュニア世代は、現在30歳前後であり、これから世帯を構え、自らのライフスタイルを確立していく世代であるとも言える。彼らの年齢及び人口規模を考えると、団塊世代がこれまで住宅市場に対し大きなインパクトを与えてきたのと同様、団塊ジュニア世代も市場に大きなインパクトを与えていくと考えられる。

(2) 首都圏におけるウェイト

1950年（昭和25年）の1都3県の0～4歳人口は全国の0～4歳人口の約15%であった（1（2）参照）。一方、1975年（昭和50年）の1都3県の0～4歳人口は全国の0～4歳人口の約25%であった¹³。このことから、第二次世界大戦後の高度成長期に、1都3県における出生者の全国における出生者に対する割合が高まってきたことが推定できる。今後、当時の首都圏生まれの団塊世代よりも、現在の首都圏生まれの団塊ジュニア世代を含む若年世代の方が、首都圏の住宅市場に与えるインパクトが相対的に大きくなる可能性があると考えられる。

¹⁰ 三浦展（2003）

¹¹ 平成12年国勢調査報告 年齢別人口（50～54歳）

¹² 平成12年国勢調査報告 年齢別人口（25～29歳）

¹³ 昭和50年国勢調査報告を元に算定。

(3) 資産と住宅取得の関係

先述のように、住宅市場において、団塊ジュニア世代が与えるインパクトが大きくなると予測されるが、果たして彼らは住宅取得に十分な資産を有しているのだろうか。そのような問題意識から資産保有状況をみると、団塊ジュニア世代の多くは、住宅取得資金の大半を住宅ローンや親からの援助等に頼らざるを得ない状況にあるといえる。

平成 11 年全国消費実態調査のうち、単身世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果（要約）（平成 12 年 9 月 29 日速報）によると、若年単身世帯（30 歳未満）の貯蓄現在高は男性 173 万円、女性 156 万円となっている。貯蓄年収比（年間収入に対する貯蓄現在高の比率）は、男性（年間収入は 360 万円）が 48.0%、女性（年間収入は 288 万円）が 54.0%となっている。また、若年単身世帯では、貯蓄現在高が 50 万円未満の世帯が約三分の一を占めている。50 歳代世帯の一世帯当たりの金融資産が 1,500 万円を超えていること（1（3）参照）と比較しても、団塊ジュニア世代が保有する金融資産は極めて少なく、自らの資産だけで住宅を取得するのは難しいというのが実態である。

また、全世代を対象にしたデータではあるが、国土交通省が平成 15 年に実施した「住宅需要実態調査」においても、住宅の住み替え・改善の実現が困難な理由として、「預貯金（住宅財形などを含む）や返済能力が不足している、またはその可能性がある」との理由を挙げた者が 45.3%となっている。当然ではあるが、住宅変更に際して資金面の問題はやはり極めて重要である。

一方、最近の経済情勢をみると、団塊ジュニア世代の住宅取得環境は改善してきている。平成 15 年版国民生活白書（内閣府）によると、デフレが続く中、地価の下落、住宅建設コストの低下、住宅ローン金利の低下、それに伴う月々のローン返済額の世帯収入に占める割合の低下等が生じており、これらが住宅取得環境改善の要因となっている。住宅金融公庫融資を利用した人の建売住宅の平均取得年齢をみると、2002 年度には 36.4 歳となっており、過去最低水準まで低下した。年齢層別にみると、20 代、30 代の比較的若い世代の比率が高まり、全体の 7 割を超えている。資金面の問題は重要であるが、住宅取得環境の改善という状況に支えられ、団塊ジュニア世代も、既に住宅取得に動き始めていると言える。

第3章 団塊ジュニア世代の住宅ニーズ

1. 住宅等に関するアンケート調査

このような団塊ジュニア世代の特徴、彼らを取り巻く状況等を踏まえ、さらに詳細な団塊ジュニア世代の住宅に対するニーズを探るべく、平成16年2月、インターネット調査会社を通じて、団塊ジュニア世代の住宅に関する意識調査を行った。

調査対象は、以下を考慮し、首都圏50キロ圏内（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）に居住する、団塊ジュニア世代（1973～1980生まれ）の男女各820人、計1,640人を対象とした。

- ・ 全国で1971～75年に出生した約1,000万人のうち約25%が1975年（昭和50年）に1都3県に在住しており（第2章2（2））、マスとして大きいこと
- ・ 地方部においては1都3県の調査結果とは異なる傾向が示される可能性が大きいこと

調査意図は、団塊ジュニア世代の①居住地域及び住宅様式に関する志向、②家族類型別にみた住宅ニーズ、③住宅に関連するライフスタイル、の3点（①及び②は本章、③は補論）の把握であり、30項目の質問に対して回答を得た（参考資料参照）。

以下、調査結果に基づき団塊ジュニア世代の住宅ニーズについて考察する。

(1) 居住地域及び住宅様式に関する志向

団塊ジュニア世代がどのような居住地域及び住宅様式を志向しているのかについて検討する（表1）。

表1 住宅変更予定者の変更内容と5～10年後に住みたい地域の相関関係

住居変更内容 住みたい地域		合計	持家の取得				賃貸 借換え	リフォーム	寮・社宅に住む	親元に住む	その他	
			(小計)	一戸建の新築・購入		マンション 購入						
				(小計)	新築							購入
合計		919	491	240	118	122	251	335	42	20	14	17
(小計)		707	394	183	88	95	211	247	32	17	7	10
首都圏	(小計)	363	205	69	35	34	136	133	11	7	4	3
	23区	120	62	17	9	8	45	48	3	3	3	1
	都心5区 その他18区	243	143	52	26	26	91	85	8	4	1	2
23区以外		344	189	114	53	61	75	114	21	10	3	7
(小計)		169	76	44	23	21	32	70	8	3	6	6
大都市圏		33	18	11	7	4	7	10	1	2	1	1
首都圏以外	地方都市	40	18	12	5	7	6	21	0	0	1	0
	大都市 中小都市	59	27	15	9	6	12	21	5	0	3	3
	農山漁村	9	5	3	2	1	2	4	0	0	0	0
	外国	22	7	3	0	3	4	11	1	1	1	1
	その他	6	1	0	0	0	1	3	1	0	0	1
特になし		43	21	13	7	6	8	18	2	0	1	1

(単位:人)

住居変更内容 住みたい地域		合計	持家の取得				賃貸 借換え	リフォーム	寮・社宅に住む	親元に住む	その他
			(小計)	一戸建の新築・購入		マンション 購入					
				(小計)	新築						
合計		100	53	26	13	13	27	36	5	2	2
(小計)		100	56	26	12	13	30	35	5	2	1
首都圏	(小計)	100	56	19	10	9	37	37	3	2	1
	23区	100	52	14	8	7	38	40	3	3	3
	都心5区 その他18区	100	59	21	11	11	37	35	3	2	0
23区以外		100	55	33	15	18	22	33	6	3	1
(小計)		100	45	26	14	12	19	41	5	2	4
大都市圏		100	55	33	21	12	21	30	3	6	3
首都圏以外	地方都市	100	45	30	13	18	15	53	0	0	3
	大都市 中小都市	100	46	25	15	10	20	36	8	0	5
	農山漁村	100	56	33	22	11	22	44	0	0	0
	外国	100	32	14	0	14	18	50	5	5	5
	その他	100	17	0	0	0	17	50	17	0	0
特になし		100	49	30	16	14	19	42	5	0	2

(構成比) (単位:%)

(注) 都心5区とは、東京都の千代田、中央、港、新宿、渋谷の5区を指す。

5-10年後に住みたい地域として「首都圏」を志向している者（707人）では30%、特に23区を志向している者（363人）では37%が「マンション購入」を志向している。全体（919人）でのマンション購入希望者は27%、「首都圏以外」志向者（344人）では19%であり、「首都圏に住み替えるならマンション」という傾向が確かめられた。

(2) 家族類型別に見た住宅ニーズ

団塊ジュニア世代といっても、家族類型によって彼らの住宅に対する価値観・意識やニーズが多様・複雑であることから、アンケート回答者を、次の6つの家族類型に分類し、それぞれの特徴をみることにする（表2）。

- | | |
|-----|-----------------------------|
| (a) | 配偶者なし（単身） |
| (b) | 配偶者なし（親と同居） |
| (c) | 配偶者なし（その他（祖父母・兄弟姉妹・友人等）と同居） |
| (d) | 配偶者あり（夫婦のみ） |
| (e) | 配偶者あり（夫婦と子） |
| (f) | 配偶者あり（親と同居） |

表2 家族類型による分類

配偶者の有無	家族類型	人数(人)	構成比		人数		構成比	
			配偶者有無別	全体	男	女	回答者の男女比(%)	
合計		1,640	—	100.0	820	820	50	50
配偶者なし	(小計)	1,000	100.0	61.0	598	402	60	40
	①単身	385	38.5	23.5	257	128	67	33
	②親と同居	515	51.5	31.4	303	212	59	41
	③その他と同居	100	10.0	6.1	38	62	38	62
配偶者あり	(小計)	640	100.0	39.0	222	418	35	65
	④夫婦	268	41.9	16.3	105	163	39	61
	⑤夫婦と子	320	50.1	19.5	98	222	31	69
	⑥親と同居	52	8.0	3.1	19	33	37	63

アンケート回答者の約6割が「配偶者なし」、残り約4割が「配偶者あり」となっている。配偶者の有無別に家族類型の構成比をみると、配偶者なしの場合、「親との同居」が約半数である。配偶者ありの場合、約9割が「夫婦のみ」又は「夫婦と子」の家族類型に分類される。

この家族類型分類をもとに、その中で特徴的と思われるいくつかの家族類型に絞って、団塊ジュニア世代の住宅ニーズを検討していく。

① 年収と住宅変更内容

表2の家族類型分類のうち、以下の家族類型に着目し、年収・資産と住宅変更内容の相関を分析した。

- ・ 配偶者なしの男性
- ・ 配偶者なしの女性
- ・ 配偶者あり（夫婦のみ）の男性

- ・ 配偶者あり（夫婦と子）の男性
（＝表 2 中○で囲んだ類型）

まず、「配偶者なしの男性」の住宅ニーズをみるため、彼らの年収と住宅変更予定の有無・その内容との相関関係を見ることとする（表 3）。

表 3 年収と住宅変更予定の有無・その内容との相関関係
－「配偶者なしの男性」の場合－

(単位: %)

年 収	住宅変更予定の有無・その内容		住宅変更予定ありの者の変更内容										
	住宅変更の予定なし	住宅変更の予定あり	持家の取得						賃貸借換え	リフォーム	寮・社宅に住む	親元に住む	その他
	107人	152人	(小計)		一戸建の新築・購入		マンション購入						
			(小計)	(小計)	新築	購入	購入						
合計		100	41	13	8	5	28	51	1	3	2	1	
150万円未満		100	21	16	11	5	5	58	5	5	11	0	
150-300万円未満		100	29	16	6	10	13	68	0	3	0	0	
300-500万円未満		100	43	10	7	3	33	51	1	3	1	0	
500-700万円未満		100	65	20	15	5	45	30	0	0	0	5	
700万円以上		100	67	11	0	11	56	33	0	0	0	0	
不明		100	25	0	0	0	25	50	0	25	0	0	

「配偶者なしの男性」（独身男性）は、収入が多い層ほど持家への住宅変更を希望する者が多いことが分かる。年収 500－700 万円の層では、65%が持家の取得を希望している。一方、年収 500 万円未満の層では、住宅変更予定ありの者のうち、半数以上の者（58%、68%、51%）が賃貸住宅の借り換えを希望している。この調査結果をみると、年収 500 万円は、住宅変更内容の志向が変わる境い目ともいえる。

次に、「配偶者なしの女性」の住宅ニーズを探るため、年収と住宅変更予定の有無・その内容との相関関係をみる（表 4）。

表 4 年収と住宅変更予定の有無・その内容との相関関係
－「配偶者なしの女性」の場合－

(単位: %)

年 収	住宅変更予定の有無・その内容		住宅変更予定ありの者の変更内容										
	住宅変更の予定なし	住宅変更の予定あり	持家の取得						賃貸借換え	リフォーム	寮・社宅に住む	親元に住む	その他
	53人	75人	(小計)		一戸建の新築・購入		マンション購入						
			(小計)	(小計)	新築	購入	購入						
合計		74	100	39	4	0	4	35	53	0	1	3	4
150万円未満		11	100	9	9	0	9	0	73	0	0	9	9
150-300万円未満		21	100	29	5	0	5	24	57	0	5	5	5
300-500万円未満		34	100	41	3	0	3	38	56	0	0	0	3
500-700万円未満		5	100	100	0	0	0	100	0	0	0	0	0
700万円以上		3	100	100	0	0	0	100	0	0	0	0	0
不明		1	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0

「配偶者なしの女性」（独身女性）は、「配偶者なしの男性」（独身男性）と同様賃貸住宅の借り換えを予定している者が約半分を占めていることが分かる。しかし「配偶者なしの男性」とは異なり、持家の取得を志向する場合には、マンション購入を志向する者の割合がきわめて高い（配偶者なしの男性で持ち家の取得を希望する 41%のうちマンション希望は 28%だが、配偶者なしの女性の場合は持ち家の取得を希望する 39%のうちそのほとんどである 35%がマンションを希望している。）。また、所得が増加するにつれて、賃貸借換え志向からマンション購入志向が強くなる。

次に、

- ・ 「配偶者あり（夫婦のみ）の男性及び配偶者あり（夫婦と子）の男性」
- ・ 「配偶者あり（夫婦と子）男性」

の、それぞれの年収と住宅変更予定の有無・その内容との相関関係（表5・表6）を見る。

表5 年収と住宅変更予定の有無・その内容との相関関係
 ー 配偶者あり（夫婦のみ）の男性
 ー 配偶者あり（夫婦と子）の男性
 の場合ー

(単位:%)

年 収	住宅変更予定の有無・その内容		住宅変更予定ありの者の変更内容									
	住宅変更の 予定なし	住宅変更の 予定あり	持家の取得					賃貸 借換え	リフォーム	寮・社宅に住む	親元に住む	その他
	89人	133人	(小計)	一戸建の新築・購入		マンション 購入						
			(小計)	新築	購入							
合計		132 100	74	41	20	21	33	15	8	0	1	2
150万円未満		4 100	50	50	25	25	0	0	50	0	0	0
150-300万円未満		8 100	50	13	0	13	38	38	13	0	0	0
300-500万円未満		70 100	76	46	23	23	30	20	3	0	0	1
500-700万円未満		41 100	76	39	15	24	37	7	10	0	2	5
700万円以上		9 100	89	33	33	0	56	0	11	0	0	0
不明		1 100	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0

表6 年収と住宅変更予定の有無・その内容との相関関係
 ー 「配偶者あり（夫婦と子）の男性」の場合ー

(単位:%)

年 収	住宅変更予定の有無・その内容		住宅変更予定ありの者の変更内容									
	住宅変更の 予定なし	住宅変更の 予定あり	持家の取得					賃貸 借換え	リフォーム	寮・社宅に住む	親元に住む	その他
	46人	52人	(小計)	一戸建の新築・購入		マンション 購入						
			(小計)	新築	購入							
合計		52 100	75	50	25	25	25	12	8	0	2	4
150万円未満		0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
150-300万円未満		2 100	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0
300-500万円未満		31 100	81	58	26	32	23	13	3	0	0	3
500-700万円未満		14 100	64	36	14	21	29	7	14	0	7	7
700万円以上		5 100	100	60	60	0	40	0	0	0	0	0
不明		0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年収 300 万円を超えると、持家への住宅変更を予定している者の割合が概ね 75%を超える。

また表5と表6を比較すると、表6の「夫婦と子からなる世帯」の方が持家一戸建ての取得を志向する者の割合が高い（子の有無にかかわらない夫婦世帯（表5）の戸建て希望が41%であるのに対して、子どものいる世帯（表6）の戸建て希望は50%。）。子どものいる世帯においては、持家一戸建て志向が強いことが確かめられた。

② 移動実態と居住地域の志向

団塊ジュニア世代の移動実態を家族類型別に分析し、彼らの居住地域の志向について見ることとする。具体的には、

- ・ 「配偶者なし（単身）及び配偶者なし（その他との同居）」
- ・ 「配偶者あり（夫婦）及び配偶者あり（夫婦と子）」

のそれぞれの移動実態から、それぞれの居住地域の志向を見る（表7・表8）。

表7 居住地域の志向（直近の住所の距離圏別にみた現在の住所の距離圏）
 - 「配偶者なし」の場合 -

(単位:人)

		直近住所 (50km圏内のみ)					
		合計	0-10km	10-20km	20-30km	30-40km	40-50km
合計		264	56	92	52	43	21
転居なし		34	9	13	7	3	2
転居あり		230	47	79	45	40	19
現住所	0-10km	56	22	15	7	3	0
	10-20km	101	18	44	12	9	5
	20-30km	67	4	17	21	13	5
	30-40km	29	2	2	5	12	5
	40-50km	11	1	1	0	3	4

(構成比) (単位:%)

転居あり		100	100	100	100	100	100
現住所	0-10km	21	47	19	16	8	0
	10-20km	38	38	56	27	23	26
	20-30km	25	9	22	47	33	26
	30-40km	11	4	3	11	30	26
	40-50km	4	2	1	0	8	21

都心に近くなった者

都心に近くなった者

表8 居住地域の志向（直近の住所の距離圏別にみた現在の住所の距離圏）
 - 「配偶者あり」の場合 -

(単位:人)

		直近住所 (50km圏内のみ)					
		合計	0-10km	10-20km	20-30km	30-40km	40-50km
合計		398	52	144	105	56	41
転居なし		67	12	18	17	13	7
転居あり		331	40	126	88	43	34
現住所	0-10km	38	10	9	4	2	1
	10-20km	148	20	77	27	4	2
	20-30km	103	7	27	41	7	4
	30-40km	63	2	9	12	23	4
	40-50km	46	1	4	4	7	23

(構成比) (単位:%)

転居あり		100	100	100	100	100	100
現住所	0-10km	10	25	7	5	5	3
	10-20km	37	50	61	31	9	6
	20-30km	26	18	21	47	16	12
	30-40km	16	5	7	14	53	12
	40-50km	12	3	3	5	16	68

都心に近くなった者

都心に近くなった者

(注1) 「転居なし」とは、出生して以後一度も転居していないということ。

(注2) 「転居あり」には、同距離圏内での転居及び距離圏をまたがる転居のいずれをも含む。

表7のように単身者では、都心から0-10キロ圏、10-20キロ圏、20-30キロ圏においては、同距離圏内での居住を選択してきた者（表中の太枠部分）が、「転居経験あり」の約半分を占めていることがわかる（例えば「直近の住所=0-10キロ圏」から転居した47人のうち22人が現在の住所も0-10キロ圏）。また、20-30キロ圏よりも郊外部に居住する者は、同距離圏内での転居に加え、都心寄りの地域への居住を選択した例がかなり多い。

表8は、一般に「配偶者あり」の世帯の結婚後の動きを意味していると考えられるが、都心0-10キロ圏では、10-20キロ圏への移動の割合が高いという点が目立つ。一方、都心から0-10キロ圏以外の全ての距離圏において、同距離圏内での住居移動の割合が、転居経験ありの者のうち約半分を占めている。

表7と表8を比較すると、「配偶者なし」よりも、「配偶者あり」の方が、総合的に見れば同じ距離圏内での移動の割合が高い。

今回の調査以外の調査においても、単身よりも家族をもつ者の方が同距離圏内での移動の割合が高い傾向が現れている。例えば、埼玉県、千葉県等の都心郊外地に住む者の場合、同地域内での転居の傾向が強く、両親宅に近い場所に住むことを選択するなど、いわゆる「地縁」を重視する傾向が強いようである。とりわけ、利便性が高く、都心への時間距離が短縮される駅前近くの立地に人気があるようである¹⁴。

これらのことから、単身者は都心よりの地域への居住を選択し、家族を持つと都心からさほど遠くない郊外までの居住地域を選択するという、それぞれの家族類型に特有の居住地域志向が確認される。

なお、近年、親と同居する未婚者であるパラサイトシングルが存在が注目されてきている。実際、持家世帯のうち約7割が、子どもと同居している実態がある¹⁵。しかしながら、首都圏在住の住宅未取得の1970~74年生まれの者を対象にした調査では、親世帯が首都圏の持家居住であっても、「親の家には戻らない」という回答が約8割¹⁶となっており、団塊ジュニアを含む若年世代の意識としては、住宅は自ら確保するという考え方が主流のようであり、同居ではなく近居志向、核家族化、世帯の分離が進む傾向にある。

2. その他

(1) 戸建て持家住宅志向

このほか、以下のとおり、団塊ジュニア世代は戸建て持家住宅志向が強い世代であることが分かる。

金融広報中央委員会が実施した「家計の金融資産に関する世論調査」では、20歳代の非持家世帯のうち約40%が、30歳代で持家を取得したいと考えているとされている¹⁷。

また、矢野経済研究所（民間の調査機関）が実施した『団塊ジュニアの「住まい」に関する意識調査¹⁸』では、当該調査の団塊ジュニアの現在の住宅形態は賃貸マンション

¹⁴ 日本経済新聞 平成16年5月31日付け朝刊19面参照。

¹⁵ 東京ガス（2003）

¹⁶ 榊長谷工アールベスト「持家需要動向調査」による。

¹⁷ 金融広報中央委員会「家計の金融資産に関する世論調査 全国階層別データ（平成15年）」
<http://www.saveinfo.or.jp/kinyu/yoron/per03.html#01>

¹⁸ 矢野経済研究所2002年4月18日付けプレスリリースによる。

38.2%・戸建て持家 35.7%である一方、将来住みたい住宅形態は戸建て持家 73.4%と、現在どのような住宅形態であっても将来は戸建て住宅に住むことを望んでいるとされている（なお、親の住宅に住もうと考えている者は 13.6%と意外に少ないものの、団塊ジュニア世代の約 6 割の者が親の住宅を相続するとされている点は、将来の住宅資金の裏づけとなる観点から、留意する必要がある）。

また、団塊ジュニア世代は、注文住宅市場での動きが活発化しているという調査結果もある。

「2002 年注文住宅を建てた人の動向調査¹⁹」によると、団塊ジュニア世代が全注文者に占める割合が 13%にまで高まっているとされている。彼らの購買行動の特徴は、58%の者が、親の援助を受けて住宅を建築していることである。平均援助額は約 650 万円であり、いきなり土地を新規に購入して住宅を建築する者は約 7 割である。

(2) 住み替えではなく最初から戸建て持家を

現在の経済情勢では、従来のような住宅資産の価値の上昇はあまり期待できないどころか、資産デフレの影響により、資産価値の減少が見込まれることから、従来団塊世代がやってきたようなライフステージに応じた住宅の買い替え（二次取得）は困難な状況になっている。このような状況の中で、団塊ジュニア世代は住み替えを繰り返して最終的に戸建てを取得するというよりも、むしろ (1) のとおり、最初から戸建て住宅の取得を考える傾向が出ているようである。

また、持家の取得といっても、自ら購入する以外の取得方法として、相続による持家の取得についても考慮する必要がある。本アンケート調査においても、現状の年収面では、自らの力で家屋・土地を取得するにはやや難がある一方、親からの相続ができる家屋・土地を持っている者の割合が 75%と多数に上っている（表 9）。

表 9 相続できる土地の有無とその使い方

	相続できる土地の有無とその使い方予定	度数	パーセント
1	相続できる家または土地があり、それを相続し、その家または土地に住む	212	12.9
2	相続できる家または土地があり、それを相続するが、その家または土地には住まない	177	10.8
3	相続できる家または土地があり、それを相続するが、その家または土地に住むかどうか分からない	579	35.3
4	相続できる家または土地があるが、相続するつもりはない	254	15.5
5	相続できる家または土地はない	408	24.9
	無回答	10	0.6
	全体	1640	100.0

しかし相続できる者のうちの半数近くが、相続可能な家屋・土地をどのように活用するかについては分からないとしている。こういった状況からすると、将来的には、親の保有する住宅に積極的に住みたいと考えてはいないものの、親の家屋・土地等の資産を裏づけに、自らの持家を確保できる見込みがあると考えていると読み取れるのではないだろうか。

¹⁹ 月刊「Housing」（㈱リクルート）2002 年 2 月 7 日付けによる。

おわりに

本研究では、今後新たに住宅市場に対して大きなインパクトを及ぼすと考えられる団塊ジュニア世代に焦点をあて、団塊ジュニア世代の意識をより深く探るため、首都圏に在住する団塊ジュニア世代を対象にアンケート調査を行い、その結果を考察した。

団塊の世代は住宅市場に対し大きな需要を発生させ、そのライフステージに対応して住宅の供給が図られてきた。この場合、団塊の世代のライフステージはほぼ画一的に把握され、賃貸住宅からの住み替えにより最終的には持ち家を取得するというパターンが想定されていた。これに対し本調査の結果、団塊ジュニア世代の場合は、彼らの住宅に対する価値観及び意識は多様であることが確かめられた。住宅市場において、多様な価値観に対応した多様な選択肢の提供が、今後一層求められよう。

なお、同じ団塊ジュニア世代であっても、住んでいる地域によって住宅の取得に関する意識は異なると考えられる。特に、首都圏とそれ以外の地方における団塊ジュニアの意識は大きく異なるであろう。今回の調査は、団塊ジュニア世代の人口の割合が高く、住宅市場へ及ぶインパクトが大きいと考えられる首都圏に絞って実施したものであり、地方圏における住宅ニーズに関しては別途の調査が必要である。

また、より深く住宅市場へのインパクトを検討するには、彼らが今後、どれだけ子供を生みどういった家族形態になるか（さらに政策的にどのような少子化対策を講じていくのか）、という検討も必要であろう。家族構成によって住宅ニーズの傾向が大きく違うことが認められるからである。家族を構成する場合には、働きながら育てられるような環境の住宅、良質な保育所や子育てサポートセンターが近くにある住宅など、住宅以上に、子育てや家族生活を円滑にできる住宅立地が今後重要になると思われる。また単身世帯の場合、友達の住まいに近いところに住居を選ぶ傾向があるとも言われている。

さらに、団塊ジュニア世代の転居に関する考え方が、これまでと比べてどのように変化するのも重要であろう。今後住宅は確実に余ってくるので、その場合例えば田舎の両親が住んでいた戸建の家について、賃貸にしたい、都心と地方の両方に住みたい、などという潜在ニーズも考えられる。逆にこれらのニーズを顕在化することができれば、転居に対する考え方も変化し、住宅市場へのインパクトも違ってくる。

第 II 部

団塊ジュニア世代のライフスタイル

第Ⅱ部 団塊ジュニア世代のライフスタイル

第Ⅱ部では、団塊ジュニア世代の住宅ニーズの前提として、彼らはどのようなライフスタイルを持っているのかについて、住宅と関連の深い事項を中心に同じく調査し、結果を取りまとめた。

第1章 団塊ジュニアのプロフィール

1. 世帯の構成

前述のように、今回の調査対象は第二ベビーブーマーである1970年～74年生まれではない。親のどちらかが団塊世代である者がその年の出生数の半数以上となる1973年～80年生まれで、真性団塊ジュニアとでも呼ぶべき世代である。2004年時点では31歳から24歳ということになる。したがって、親からの独立や結婚といった青年期の変化の真只中にある世代であり、世帯の構成が多様でかつ流動的であると思われる。

4割は既婚 6割は未婚 未婚者の半数は親と同居

表1は同居者を細分類した集計であるが、これをこの世代の世帯構成の主要な軸である、①配偶者の有無②親と同居別居によって6類型に分類した集計が表2である。配偶者ありが4割、配偶者なしが6割、配偶者なしのうち半数は親から独立、半数は親と同居というのが大まかな団塊ジュニアの世帯構成プロフィールである。

以後の分析ではこの6世帯類型を用いるが、その際配偶者ありは「既婚」、配偶者なしは「未婚」と表現する。離婚などによって配偶者なしとなった者は「未婚」に含まれる。また、図表などで家族類型という用語が使われている場合があるが、世帯類型と同義である。

表 1 世帯構成(細区分)

配偶者の有無	家族類型	世帯数	構成比(%)		備考
			配偶者有無別	全体	
合計		1,634	—	100.0	
配偶者なし	(小計)	997	100.0	61.0	
	①単身	384	38.5	23.5	
	②親と同居	513	51.5	31.4	
	1) 親のみ	224	22.5	13.7	
	2) 親・兄弟のみ	234	23.5	14.3	
	3) 親・その他	31	3.1	1.9	配偶者は同居していないが子供のいる4世帯含む
	4) 親・兄弟・その他	24	2.4	1.5	配偶者は同居していないが子供のいる2世帯含む
	③その他と同居	100	10.0	6.1	
	1) 兄弟のみ	24	2.4	1.5	
	2) 友人のみ	34	3.4	2.1	
3) その他	42	4.2	2.6	配偶者は同居していないが子供のいる7世帯含む	
配偶者あり	(小計)	637	100.0	39.0	
	④夫婦	267	41.9	16.3	兄弟、友人等の同居している3世帯含む
	⑤夫婦と子	319	50.1	19.5	兄弟、友人等の同居している4世帯含む
	⑥親と同居	51	8.0	3.1	
	1) 夫婦・親	13	2.0	0.8	その他祖父母等の同居している2世帯含む
	2) 夫婦・親・兄弟	5	0.8	0.3	その他祖父母等の同居している1世帯含む
3) 夫婦・子・親	31	4.9	1.9	その他祖父母等の同居している2世帯含む	
4) 夫婦・子・親・兄弟	2	0.3	0.1		

表 2 世帯類型

配偶者の有無	家族類型	世帯数	構成比(%)	
			配偶者有無別	全体
合計		1,634	—	100.0
配偶者なし	(小計)	997	100.0	61.0
	①単身	384	38.5	23.5
	②親と同居	513	51.5	31.4
	③その他と同居	100	10.0	6.1
配偶者あり	(小計)	637	100.0	39.0
	④夫婦	267	41.9	16.3
	⑤夫婦と子	319	50.1	19.5
	⑥親と同居	51	8.0	3.1

未婚者の親との同居率は年齢に関係なく一定

次に、この6世帯類型での分布を年齢別、性別にみる(表3)。ここで、年齢は①20歳代半ば(24～26歳)、②20歳代後半(27～29歳)、③30歳代初め(30～31歳)の3分類とした。これをみると、団塊ジュニアと一口にいても、年齢や性別によってかなり違っていることが分かる。既婚率は男性3割、女性5割であるが、年齢が高くなるにつれ既婚率が上がる。男女とも1歳年齢が上がるごとに5～6%既婚者が増える勘定であり、まさに結婚適齢期であることを示している。3歳程度のズレで女性が早く結婚している。逆にいえば若いほど未婚率は高く、20歳代半ばでは男性で9割、女性で7割が未婚である。なお参考に、平成12年(2000年)国勢調査で24歳～31歳(本調査の対象者より4歳年上の世代)の有配偶者率は、東京圏で男性28%、女性42%となっており、男性は同率だが女性は本調査のほうが9%ほど高い。団塊ジュニアは結婚しない世代というわけではない。

親との同居関係をみると、未婚者のうち親と同居、親から独立(単身又は親以外と同居)がほぼ半数ずつで、男女の差はほとんどない。しかもこの比率は、年齢が上がってもさほど変化しない。ということは、20歳代半ばまでに親と同居か独立かが決まった後は、結婚するまでそのままであるということを示している。

表3 性別・年齢別世帯類型

配偶者の有無	家族類型	合計	男性				女性			
			(小計)	24～26才	27～29才	30～31才	(小計)	24～26才	27～29才	30～31才
合計		1,634	818	285	391	142	816	266	369	181
配偶者なし	(小計)	997	596	256	270	70	401	189	151	61
	①単身	384	256	100	123	33	128	52	52	24
	②親と同居	513	302	139	130	33	211	106	76	29
	③その他と同居	100	38	17	17	4	62	31	23	8
配偶者あり	(小計)	637	222	29	121	72	415	77	218	120
	④夫婦	267	105	16	58	31	162	28	83	51
	⑤夫婦と子	319	98	9	56	33	221	42	121	58
	⑥親と同居	51	19	4	7	8	32	7	14	11
(構成比) (単位:%)										
合計		100	100	100	100	100	100	100	100	100
配偶者なし	(小計)	61	73	90	69	49	49	71	41	34
	①単身	24	31	35	31	23	16	20	14	13
	②親と同居	31	37	49	33	23	26	40	21	16
	③その他と同居	6	5	6	4	3	8	12	6	4
配偶者あり	(小計)	39	27	10	31	51	51	29	59	66
	④夫婦	16	13	6	15	22	20	11	22	28
	⑤夫婦と子	20	12	3	14	23	27	16	33	32
	⑥親と同居	3	2	1	2	6	4	3	4	6

既婚者の半数には子供が居り、3人家族7割 4人家族3割

次に世帯類型ごとの世帯人数をみる（表4）。未婚で親と同居者の場合は3、4人世帯が主で、5人世帯も1割強を占める。本人に加え兄弟など1、2人が親と同居しているということである。東京ガス都市生活研究所の団塊世代の調査でも世帯人数の平均が3.7人で、4人世帯が34.3%、5人も16.0%を占めるという結果であった。団塊世代が親子で住んでいる家は、現代の多人数世帯の一部を成している。

一方、未婚で親以外と同居している場合は2人世帯がほとんどである。既婚で子供のいる世帯は3人が大半だが、4人（子供2人）世帯も3割を占めている。

表4 世帯類型別世帯人員

		合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人
合計		1,634	384	383	426	302	95	44
配偶者 なし	(小計)	997	384	129	198	198	59	29
	単身	384	384	0	0	0	0	0
	親と同居	513	0	38	191	197	59	28
	他と同居	100	0	91	7	1	0	1
配偶者 あり	(小計)	637	0	254	228	104	36	15
	夫婦	267	0	251	13	3	0	0
	夫婦と子	319	0	3	210	89	16	1
	親と同居	51	0	0	5	12	20	14
(構成比)								(単位:%)
合計		100	24	23	26	18	6	3
配偶者 なし	(小計)	100	39	13	20	20	6	3
	単身	100	100	0	0	0	0	0
	親と同居	100	0	7	37	38	12	5
	他と同居	100	0	91	7	1	0	1
配偶者 あり	(小計)	100	0	40	36	16	6	2
	夫婦	100	0	94	5	1	0	0
	夫婦と子	100	0	1	66	28	5	0
	親と同居	100	0	0	10	24	39	27

2. 社会的属性(職業と収入)

男性の職業が安定するのは20歳代後半 自由業・パート・アルバイトでは結婚していない

男性の職業で、比較的安定していると思われる公務員と会社員の比率の合計は、20歳代半ば57%、20歳代後半74%、30歳代初め76%となっている。一方、パート・アルバイトと学生の比率の合計は同じ順で35%、12%、9%である。年齢が上がるほど職業が安定していく様子が分かる。従来の日本では20歳代半ばまでには職業が決まったものだが、ジュニア世代では20歳代後半までずれ込んでいる。こうした、職業の安定は結婚につながる。表6は世帯類型別の職業であるが、自由業、パート・アルバイト、学生で既婚者はほとんどいない。自由業の5割、パート・アルバイトの6割は親と同居している。

表5 性別・年齢別職業

職業	合計	男性				女性			
		(小計)	24~26才	27~29才	30~31才	(小計)	24~26才	27~29才	30~31才
合計	1,634	818	285	391	142	816	266	369	181
公務員	57	38	6	17	15	19	8	7	4
経営者・役員	9	6	1	3	2	3	1	1	1
会社員(事務系)	269	113	28	61	24	156	53	75	28
会社員(技術系)	363	292	97	150	45	71	27	35	9
会社員(その他)	162	117	31	63	23	45	20	17	8
自営業	38	25	4	10	11	13	4	5	4
自由業	26	15	1	10	4	11	3	5	3
専業主婦	273	—	—	—	—	273	51	145	77
パート・アルバイト	219	79	43	29	7	140	51	52	37
学生	110	81	58	18	5	29	24	4	1
その他	108	52	16	30	6	56	24	23	9
(構成比)		(単位:%)							
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
公務員	3	5	2	4	11	2	3	2	2
経営者・役員	1	1	0	1	1	0	0	0	1
会社員(事務系)	16	14	10	16	17	19	20	20	15
会社員(技術系)	22	36	34	38	32	9	10	9	5
会社員(その他)	10	14	11	16	16	6	8	5	4
自営業	2	3	1	3	8	2	2	1	2
自由業	2	2	0	3	3	1	1	1	2
専業主婦	17	—	—	—	—	33	19	39	43
パート・アルバイト	13	10	15	7	5	17	19	14	20
学生	7	10	20	5	4	4	9	1	1
その他	7	6	6	8	4	7	9	6	5

表 6 世帯類型別職業(男性)

配偶者の有無	家族類型	合計	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦	パート・アルバイト	学生	その他
合計		818	38	6	113	292	117	25	15	—	79	81	52
配偶者なし	(小計)	596	21	3	80	183	75	15	14	—	78	79	48
	①単身	256	7	1	39	100	38	5	6	—	23	23	14
	②親と同居	302	13	1	37	73	31	8	7	—	48	52	32
	③その他と同居	38	1	1	4	10	6	2	1	—	7	4	2
配偶者あり	(小計)	222	17	3	33	109	42	10	1	—	1	2	4
	④夫婦	105	5	0	13	62	16	5	1	—	1	1	1
	⑤夫婦と子	98	9	3	20	37	24	3	0	—	0	0	2
	⑥親と同居	19	3	0	0	10	2	2	0	—	0	1	1
(構成比)													
合計		100	5	1	14	36	14	3	2	—	10	10	6
配偶者なし	(小計)	100	4	1	13	31	13	3	2	—	13	13	8
	①単身	100	3	0	15	39	15	2	2	—	9	9	5
	②親と同居	100	4	0	12	24	10	3	2	—	16	17	11
	③その他と同居	100	3	3	11	26	16	5	3	—	18	11	5
配偶者あり	(小計)	100	8	1	15	49	19	5	0	—	0	1	2
	④夫婦	100	5	0	12	59	15	5	1	—	1	1	1
	⑤夫婦と子	100	9	3	20	38	24	3	0	—	0	0	2
	⑥親と同居	100	16	0	0	53	11	11	0	—	0	5	5

女性の既婚者の6割強は専業主婦 子供がいると8割を占める

女性の職業は結婚後専業主婦となるケースがあるため、男性とは違った分布となる。年齢が上がるにしたがって専業主婦の割合が増えるのは、既婚率が上がるからである。これを世帯類型別にみる。(表 7)。未婚者の職業分布は男性と極端な違いはないが、事務系会社員が技術系の倍(男性では逆に技術系が倍)いること、パート・アルバイトが18%と男性より5ポイント多いことが特徴といえる。既婚者では専業主婦が6割を超え、特に子供が出来るると8割を占める。

表 7 世帯類型別職業(女性)

配偶者の有無	家族類型	合計	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦	パート・アルバイト	学生	その他
合計		816	19	3	156	71	45	13	11	273	140	29	56
配偶者なし	(小計)	401	14	0	129	56	37	5	6	6	73	28	47
	①単身	128	6	0	42	31	18	1	1	2	10	10	7
	②親と同居	211	8	0	72	16	13	1	3	2	47	15	34
	③その他と同居	62	0	0	15	9	6	3	2	2	16	3	6
配偶者あり	(小計)	415	5	3	27	15	8	8	5	267	67	1	9
	④夫婦	162	3	2	19	13	4	3	2	72	39	1	4
	⑤夫婦と子	221	2	1	6	2	3	3	3	175	23	0	3
	⑥親と同居	32	0	0	2	0	1	2	0	20	5	0	2
(構成比)													
合計		100	2	0	19	9	6	2	1	33	17	4	7
配偶者なし	(小計)	100	3	0	32	14	9	1	1	1	18	7	12
	①単身	100	5	0	33	24	14	1	1	2	8	8	5
	②親と同居	100	4	0	34	8	6	0	1	1	22	7	16
	③その他と同居	100	0	0	24	15	10	5	3	3	26	5	10
配偶者あり	(小計)	100	1	1	7	4	2	2	1	64	16	0	2
	④夫婦	100	2	1	12	8	2	2	1	44	24	1	2
	⑤夫婦と子	100	1	0	3	1	1	1	1	79	10	0	1
	⑥親と同居	100	0	0	6	0	3	6	0	63	16	0	6

将来の転職については、半数弱が「転職」を希望しており、うち2割は「是非転職したい」としている。職業別では、パート・アルバイトは当然だが、会社員にも転職希望はつよい。一方、公務員、会社役員、自営業は転職意向が少ない。性別には、女性が「特に考えていない」が4割を占め、結婚や子育てなど自らの意向だけでは決められない女性ならではの事情を反映している。

男性の年収は8割が500万円未満 300万円未満も3割強

次に収入（個人年収）であるが、まず男性についてみる（表8）。全体では、300万円未満が3割強、300万円以上500万円未満が4割強で、500万円未満が8割を占める。職業別には、公務員、会社員では300万円以上500万円未満に分布のピークがあつて5～6割をしめるが、自由業やパート・アルバイトはより低い収入に厚く分布する。特にパート・アルバイトは150万円未満が4割を占め、300万円以上は殆どいない。

女性では（表9）、公務員、会社員のピークは300万円以上500万円未満だが、150万円以上300万円未満も3～4割を占める。パート・アルバイトも150万円未満が6割と、全体として男性より低い収入となっている。専業主婦は当然ほとんどが150万円未満である。

表8 職業別収入(男性)

職業	合計	150	150-300	300-500	500-700	700-1,000	1,000	不明
		万円未満	万円未満	万円未満	万円未満	万円未満	万円以上	
合計	818	113	162	356	123	23	7	34
公務員	38	0	3	22	12	1	0	0
経営者・役員	6	0	1	3	1	0	0	1
会社員(事務系)	113	1	19	61	25	3	2	2
会社員(技術系)	292	1	45	173	59	8	1	5
会社員(その他)	117	1	22	64	19	6	3	2
自営業	25	3	6	6	3	4	1	2
自由業	15	3	6	4	1	0	0	1
専業主婦	—	—	—	—	—	—	—	—
パート・アルバイト	79	31	35	5	0	0	0	8
学生	81	53	13	7	1	1	0	6
その他	52	20	12	11	2	0	0	7
(構成比)		(単位:%)						
合計	100	14	20	44	15	3	1	4
公務員	100	0	8	58	32	3	0	0
経営者・役員	100	0	17	50	17	0	0	17
会社員(事務系)	100	1	17	54	22	3	2	2
会社員(技術系)	100	0	15	59	20	3	0	2
会社員(その他)	100	1	19	55	16	5	3	2
自営業	100	12	24	24	12	16	4	8
自由業	100	20	40	27	7	0	0	7
専業主婦	—	—	—	—	—	—	—	—
パート・アルバイト	100	39	44	6	0	0	0	10
学生	100	65	16	9	1	1	0	7
その他	100	38	23	21	4	0	0	13

表 9 職業別収入(女性)

職業	合計	150 万円未満	150-300 万円未満	300-500 万円未満	500-700 万円未満	700-1,000 万円未満	1,000 万円以上	不明
合計	816	362	180	173	25	6	2	68
公務員	19	0	5	13	1	0	0	0
経営者・役員	3	2	1	0	0	0	0	0
会社員(事務系)	156	6	61	75	4	1	0	9
会社員(技術系)	71	1	19	40	8	1	0	2
会社員(その他)	45	2	18	19	4	1	0	1
自営業	13	6	4	3	0	0	0	0
自由業	11	5	3	0	0	1	0	2
専業主婦	273	206	11	11	7	2	1	35
パート・アルバイト	140	87	39	6	1	0	1	6
学生	29	21	5	0	0	0	0	3
その他	56	26	14	6	0	0	0	10

(構成比)

(単位:%)

職業	合計	150 万円未満	150-300 万円未満	300-500 万円未満	500-700 万円未満	700-1,000 万円未満	1,000 万円以上	不明
合計	100	44	22	21	3	1	0	8
公務員	100	0	26	68	5	0	0	0
経営者・役員	100	67	33	0	0	0	0	0
会社員(事務系)	100	4	39	48	3	1	0	6
会社員(技術系)	100	1	27	56	11	1	0	3
会社員(その他)	100	4	40	42	9	2	0	2
自営業	100	46	31	23	0	0	0	0
自由業	100	45	27	0	0	9	0	18
専業主婦	100	75	4	4	3	1	0	13
パート・アルバイト	100	62	28	4	1	0	1	4
学生	100	72	17	0	0	0	0	10
その他	100	46	25	11	0	0	0	18

第2章 親との関係

1. 別居者の親との関係

親との関係をまず別居者からみていく。別居の契機は、進学、就職、結婚がそれぞれ2割前後を占める（表10）。前節では、20歳代半ばまでに親との同居別居が決まり、結婚するまではその状態が続くと述べたが、別居の契機からも同様のことがいえる。

進学・就職時に親との同居別居が決まり、同居者は結婚するまで親元にいる

まず、進学時（多くは大学への）か就職時に親元を離れるかどうかの節目が来る。未婚者の別居者の7割強はこの契機で別居している。いったん同居した者が結婚以外の契機で別居することは少ない。ただし、未婚で親以外と同居している者の25%は「特に契機なし」としている。パートナーが見つかって別居したということだろう。次に来るきっかけは結婚で、既婚者の5割強は結婚をきっかけに別居している。

表 10 親と別居した契機

	合計	配偶者なし			配偶者あり		
		(小計)	単身	他と同居	(小計)	夫婦のみ	夫婦と子
合計	1,070	484	384	100	586	267	319
進学・進級	335	225	188	37	110	56	54
就職	211	119	98	21	92	39	53
結婚	324	10	2	8	314	140	174
転職	18	15	15	0	3	2	1
卒業(就職はしない)	10	8	2	6	2	2	0
特に契機なし	101	69	44	25	32	10	22
不明	71	38	35	3	33	18	15

(構成比) (単位: %)

	合計	100	100	100	100	100	100
進学・進級	31	46	49	37	19	21	17
就職	20	25	26	21	16	15	17
結婚	30	2	1	8	54	52	55
転職	2	3	4	0	1	1	0
卒業(就職はしない)	1	2	1	6	0	1	0
特に契機なし	9	14	11	25	5	4	7
不明	7	8	9	3	6	7	5

別居の理由を見ても(表 11)、未婚者の6割は「通勤通学が遠方で通えない」という即物的な理由を挙げている。複数回答設問であり、「干渉されたくない」「独立が当然」といった理由もそれぞれ2割前後あるが、ここでも進学や就職を節目に別居する、という姿が浮かび上がる。それに対し、既婚者では「独立が当然」が一番多く5割を占める。結婚後も同居しているのは既婚者の1割弱に過ぎず、結婚したら独立するというのが一般的なのである。便利なところに住みたいとか部屋が狭い、といった居住に関する理由での別居は多くない。

表 11 親との別居理由

	合計	配偶者なし			配偶者あり		
		(小計)	単身	他と同居	(小計)	夫婦のみ	夫婦と子
合計	100	100	100	100	100	100	100
通勤通学先が遠方で通えなかったから	44	61	64	47	31	32	30
親から干渉されたくないから	17	17	17	18	17	15	18
自由に友人を招きたいから	4	5	4	5	4	4	3
利便性の高い場所に住みたかったから	13	14	13	17	12	14	10
居室が狭かったから	5	4	4	6	6	5	7
独立するのが当然と思ったから	39	24	22	32	51	48	53
別居に必要な資金が確保できたから	4	5	4	6	4	2	5
その他	6	5	4	10	6	7	6
不明	5	6	7	3	4	7	3

親との援助関係なし6割 援助している1割弱 援助を受けている3割強

別居者の親との援助関係をみる(表 12)。複数回答だが、複数回答は8%に過ぎずほぼ単一回答と見てよい。経済的援助関係はないが全体で6割を占める。親を援助・介護しているのは4%、逆に親から経済面、生活面、子育ての援助を受けているのが15%である。

27%を占める「近くに住む」は何らかの援助関係があると推測できる。援助する、されるの割合が近居していない者と同じと仮定して按分すると、ごく大まかには、援助関係なし6割、援助している1割弱、援助を受けている3割強といった親との関係が推測される。

世帯類型別には差がみられる。既婚者は未婚者に比べ近くに住む割合が高い。特に子供のいる世帯では4割を超える。さらに、援助関係なしが5割と全体より10ポイント低く、1割強は子育てを手伝ってもらっている、など半数以上が親世帯との強い関係を持っている。未婚者では、単身と親以外と同居で違いがみられる。どちらも15%が経済的支援を受けているが、親以外と同居する者は親と近居の割合や生活支援を受ける割合が単身者より高い。

表 12 親との援助関係

	合計	配偶者なし			配偶者あり		
		(小計)	単身	他と同居	(小計)	夫婦のみ	夫婦と子
合計	1,070	484	384	100	586	267	319
親の近くに住んでいる	284	67	46	21	217	84	133
親を経済的に援助している	41	25	22	3	16	10	6
親を介護している	4	0	0	0	4	1	3
親から経済的援助を受けている	95	72	57	15	23	5	18
親から生活面で面倒をみてもらっている	26	14	7	7	12	2	10
親に子育てを手伝ってもらっている	48	5	0	5	43	0	43
経済的に援助しあう関係はない	632	298	250	48	334	171	163
その他	32	13	7	6	19	8	11
不明	35	17	15	2	18	10	8
(構成比)		(単位:%)					
合計	100	100	100	100	100	100	100
親の近くに住んでいる	27	14	12	21	37	31	42
親を経済的に援助している	4	5	6	3	3	4	2
親を介護している	0	0	0	0	1	0	1
親から経済的援助を受けている	9	15	15	15	4	2	6
親から生活面で面倒をみてもらっている	2	3	2	7	2	1	3
親に子育てを手伝ってもらっている	4	1	0	5	7	0	13
経済的に援助しあう関係はない	59	62	65	48	57	64	51
その他	3	3	2	6	3	3	3
不明	3	4	4	2	3	4	3

別居者の親との交流 顔を合わせるのは年に数回 電話は月に数回 既婚者や女性の方が頻繁に

親との交流度合いをみる(表 13)。全体では、顔を合わせるのは年に数回、電話やメールのやり取りは月に数回というのが半数を占める。既婚者の方が交流度は高く、子供のいる世帯では6割が月に数回以上顔を合わせるなど、交流の度合いがかなり高くなる。性別には女性のほうが頻繁に交流している。

表 13 親との交流の度合い

(構成比のみ %)

	合計	配偶者なし			配偶者あり			
		(小計)	単身	他と同居	(小計)	夫婦のみ	夫婦と子	
合計	100	100	100	100	100	100	100	
顔を合わせる	週数回	11	3	3	5	17	11	23
	月数回	24	14	11	22	33	28	37
	年数回	54	67	69	57	44	55	35
	ほとんどなし	8	12	12	13	4	4	4
	不明	3	4	5	3	2	2	1
電話・メールのやり取り	週数回	31	20	17	28	40	33	46
	月数回	46	48	49	44	45	46	44
	年数回	15	21	22	16	10	15	6
	ほとんどなし	4	6	7	6	3	3	3
	不明	3	5	5	6	2	2	2

2. 同居者の親との関係

親と同居者はどのような親との関係にあるかを、同居理由と別居意向でみる。

未婚者の同居理由は、経済的に有利だから 7 割、未婚だから 5 割

まず同居理由をみる (表 14)。3 つまで選べる複数回答設問である。回答率は 216% であった。未婚者では「経済的に有利」が 7 割でトップ、次いで「未婚だから」5 割弱、「生活に便利」3 割弱が続く。繰り返し述べているように、結婚するまで同居しているという層が一定いるわけである。特に女性は半数以上が未婚を同居理由としている。男性では「職場に近い」が 2 割あり、別居する必要がないという事であろう。既婚者でも「経済的に有利」が 6 割弱でトップだが、「長子だから」3 割、「親が望むから」2 割強と、家制度の存在が前提となった同居理由も多くを占める。

表 14 親との同居理由

(構成比のみ %)

	合計	配偶者なし			配偶者あり		
		(小計)	男性	女性	(小計)	男性	女性
合計	100	100	100	100	100	100	100
親と暮らすのが当然だから	17	16	12	22	20	32	13
親が希望しているから	9	8	5	12	24	26	22
経済的に有利だから	70	71	72	70	57	63	53
日常生活で便利だから	38	39	38	41	24	26	22
親の介護が必要だから	2	2	2	2	8	0	13
長男・長女だから	10	7	10	3	33	21	41
職場に近いから	13	14	18	9	6	11	3
未婚だから	46	50	41	63	2	0	3
一時的に同居	4	3	4	2	8	5	9
その他	4	3	3	2	10	5	13
特に理由なし	4	4	4	4	4	11	0

次に、今後親と別居の予定や意向をみると (表 15)、未婚者の 2 割は「独立するつもりはない」という。また「特に考えていない」も 15% おり、3 割強は独立志向ではないということになる。残りは独立の意向があるが、4 割は「折を見て」としており、ここでの「折」とは結婚と考えていだろう。性別では男性の方が若干独立志向が強いといえる。既婚の

同居者は、「特に考えていない」が男女とも 6 割を占め、大半の者は状況の変化がなければ同居を続けるということであろう。

表 15 親との別居の意向

	合計	配偶者なし			配偶者あり		
		(小計)	男性	女性	(小計)	男性	女性
合計	564	513	302	211	51	19	32
独立志向 (小計)	351	335	203	132	16	4	12
独立する具体的な予定がある	57	57	32	25	0	0	0
できるだけ早く独立したい	87	81	59	22	6	2	4
折を見て独立したい	207	197	112	85	10	2	8
当面独立するつもりはない	108	103	55	48	5	4	1
特に考えていない	105	75	44	31	30	11	19
(構成比)		(単位: %)					
合計	100	100	100	100	100	100	100
独立志向 (小計)	62	65	67	63	31	21	38
独立する具体的な予定がある	10	11	11	12	0	0	0
できるだけ早く独立したい	15	16	20	10	12	11	13
折を見て独立したい	37	38	37	40	20	11	25
当面独立するつもりはない	19	20	18	23	10	21	3
特に考えていない	19	15	15	15	59	58	59

3. 将来の親との関係

最後に将来の親との関係を、同居別居の意向と相続の有無でみる。

将来親と同居・近居したい 4 割強 同近居は考えていない 2 割弱 決めていない 4 割

まず将来の同居別居の意向であるが、全体では「同居、近居、そのどちらか」が 4 割強、「同居近居は考えていない」が 2 割弱、「決めていない」が 4 割となっている (表 16)。

親世代である団塊世代の調査と比較する。団塊世代調査では「決めていない」の選択肢がなく、「同居、近居」が 6 割、「同居近居しない」が 4 割であった。比較のため、本調査の「決めていない」グループが決めていないグループと同じ比率で別れると仮定すると、「同居、近居」が 7 割、「同居近居しない」が 3 割となって、親世代よりも同居や近居を望んでいるということになる。仮定の上にした数字であるが、少なくとも一般に考えられている、「親世代は同居を希望し、子世代はそれを嫌がっている」という関係にはないという。

世帯類型別にみると、同居志向率 (同居、近居、どちらかの合計) が最も強いのが既婚の同居者で 65%、次が未婚の同居者と既婚の別居者で 45%、最も弱いのが未婚の別居者で 34%となっている。ほぼ常識的な傾向といえよう。(表 17, 18)

表 16 将来の親との同居意向

	全体	
	N	%
将来的に同居を考えている	254	15.5
将来的に近居を考えている	208	12.7
将来的に同居または近居を考えている	241	14.7
将来的に同居も近居も考えていない	265	16.2
まだ決めていない	672	41.0
無回答	0	0.0
全体	1640	100.0

表 17 現在別居者の将来の同居意向

	合計	現在別居					
		配偶者なし			配偶者あり		
		(小計)	単身	他と同居	(小計)	夫婦	夫婦と子
合計	100	100	100	100	100	100	100
将来的に同居	15	12	13	9	17	16	17
将来的に近居(10分程度、以下同様)	10	10	10	12	11	8	13
将来的に同居、または近居	15	12	12	15	17	19	16
将来的に同居・近居は考えていない	20	23	24	20	17	20	14
まだ決めていない	40	43	42	44	38	36	40

表 18 現在同居者の将来の同居意向

	合計	配偶者なし				配偶者あり		
		(小計)	男性		女性	(小計)	女性	
			男性	女性	男性		女性	
合計	100	100	100	100	100	100	100	
将来的に同居	17	15	16	12	41	37	44	
将来的に近居(10分程度、以下同様)	17	17	16	18	22	16	25	
将来的に同居、または近居	13	15	13	17	2	5	0	
将来的に同居・近居は考えていない	10	10	11	9	6	5	6	
まだ決めていない	43	44	44	44	29	37	25	

4. 土地・建物の相続

相続できる土地・住宅ありが7割 ただし、そこに住むのは1割

全体では相続できる家屋・土地があるのは72%に及ぶ。全世代を対象にした住宅需要調査では33%であり、倍以上である。団塊ジュニアは親世代が取得したマイホームを相続する世代なのである。しかし、その家屋に「居住する」というのは11%に過ぎず、「居住しない」が9%、「相続しない」が18%を占める。

世帯類型別には、現在親と同居者は相続して居住する割合が高く、特に既婚の同居者は

半数近くが居住するとしている。対照的に、既婚の別居者では14%が居住しないとしている。

表 19 世帯類型別相続の状況

	合計	相続できる家屋・土地あり					相続 しない	相続できる 家屋・土地 なし	不明
		(小計)	相続する予定						
			居住する	居住しない	分からない				
合計	816	438	86	77	275	150	225	3	
配偶者 なし	(小計)	401	201	35	22	144	84	116	0
	単身	128	63	6	9	48	33	32	0
	親と同居	211	110	26	10	74	38	63	0
	他と同居	62	28	3	3	22	13	21	0
配偶者 あり	(小計)	415	237	51	55	131	66	109	3
	夫婦	162	96	17	22	57	23	42	1
	夫婦と子	221	113	19	30	64	42	64	2
	親と同居	32	28	15	3	10	1	3	0

(構成比)

(単位:%)

合計		100	54	11	9	34	18	28	0
配偶者 なし	(小計)	100	50	9	5	36	21	29	0
	単身	100	49	5	7	38	26	25	0
	親と同居	100	52	12	5	35	18	30	0
	他と同居	100	45	5	5	35	21	34	0
配偶者 あり	(小計)	100	57	12	13	32	16	26	1
	夫婦	100	59	10	14	35	14	26	1
	夫婦と子	100	51	9	14	29	19	29	1
	親と同居	100	88	47	9	31	3	9	0

前述の将来の同居意向と相続の状況を総合すると、次のように考えられよう。将来親と同居または近居を考えている者のうち半数が同居するとすれば、2~3割が親と同居することになる。この割合は、相続する住宅に住むかどうか「分からない」とする者の半数が居住するとして、「居住する」としている者との合算値とほぼ同じである。逆に言えば、団塊世代のマイホームの7~8割は子供に引き継がれないということになる。

結果的にはもっと多くが引き継がれることになろうが、郊外に多く存在する団塊マイホーム（その土地も含めて）の多くが、再び住宅市場に登場する日が来るわけである。

第3章 団塊ジュニアの暮らし方、考え方

1. 休日の過ごし方

本節では、団塊ジュニア世代の暮らし方やものの考え方をみていく。はじめは休日の過ごし方で、何処で過ごすか、何をするかといったことから暮らし方の一端を探ってみる。

休日を過ごす場所は家・近所派 4 割、外出派 3 割弱

まず、休日を何処で過ごすかを、家や近所にいる割合と外出する割合で尋ねた(表 20)。ほぼ半々というのが 3 割強を占め、外出派が 3 割弱、家・近所派が 4 割で、意外に家・近所派多い。性別、世帯類型別にはほとんど有意な差が見られない。

表 20 休日を過ごす場所

配偶者の有無	家族類型	総計	男性					女性				
			ほとんど 家か近所	大半 家か近所	半々	大半外出	ほとんど 外出	ほとんど 家か近所	大半 家か近所	半々	大半外出	ほとんど 外出
合計	(小計)	1,634	93	225	277	160	63	79	243	272	156	66
配偶者 なし	①単身	384	25	69	97	41	24	9	38	48	19	14
	②親と同居	513	43	77	96	57	29	21	54	75	42	19
	③その他と同居	100	5	14	9	9	1	5	26	18	11	2
配偶者 あり	(小計)	637	20	65	75	53	9	44	125	131	84	31
	④夫婦	267	7	26	41	27	4	18	58	52	23	11
	⑤夫婦と子	319	10	35	28	20	5	22	62	66	54	17
	⑥親と同居	51	3	4	6	6	0	4	5	13	7	3
(構成比2)			(単位:%)									
合計	(小計)		11	28	34	20	8	10	30	33	19	8
配偶者 なし	①単身		12	27	34	18	9	9	29	35	18	9
	②親と同居		10	27	38	16	9	7	30	38	15	11
	③その他と同居		14	25	32	19	10	10	26	36	20	9
配偶者 あり	(小計)		13	37	24	24	3	8	42	29	18	3
	④夫婦		9	29	34	24	4	11	30	32	20	7
	⑤夫婦と子		7	25	39	26	4	11	36	32	14	7
	⑥親と同居		10	36	29	20	5	10	28	30	24	8
			16	21	32	32	0	13	16	41	22	9

休日の過ごし方 未婚男性はネット・メール、既婚男性はスポーツ、女性は買物 がトップ

次に休日の自由な時間を何で楽しむかを、25 の行為から 5 まで選ぶという方法で尋ねた。(表 21) 全体では、①ネット・Eメール、②買い物、③テレビ、④映画・劇、⑤眠る、がベスト 5 である。ネット・Eメール、テレビ、眠る、などが上位を占めるとなれば、家・近所派が多いわけも分かる。

都市生活研究所が行った全世代を対象にした同様の調査では、①テレビ、②新聞・雑誌・本、③買い物、④家族との会話、⑤眠る、がベスト 5 である。新聞・雑誌の代わりにネット・メールが上位を占めており、ジュニア世代がコンピューター世代であり、文字離れしている様子が読み取れる。

表 21 休日の過ごし方

		全体	スポーツをする	スポーツ観戦(テレビでの観戦は除く)	買い物	行楽・散策など	映画鑑賞・観劇	趣味・習い事	自己啓発(通学)	ボランティア	ギャンブル(競馬、パチンコなど)	喫茶・飲食	マッサージ、リラクゼーション	美容関係	テレビを見る
性別	全体	1640 100.0	330 20.1	177 10.8	968 59.0	414 25.2	497 30.3	313 19.1	37 2.3	8 0.5	148 9.0	184 11.2	83 5.1	51 3.1	687 41.9
	男性	820 100.0	229 27.9	131 16.0	395 48.2	196 23.9	245 29.9	133 16.2	29 3.5	3 0.4	118 14.4	58 7.1	24 2.9	1 0.1	362 44.1
	女性	820 100.0	101 12.3	46 5.6	573 69.9	218 26.6	252 30.7	180 22.0	8 1.0	5 0.6	30 3.7	126 15.4	59 7.2	50 6.1	325 39.6
		ビデオを見る	テレビゲーム	ラジオや音楽を楽しむ	インターネット、Eメール	電話	家族との会話	新聞・雑誌・本を読む	子供と遊ぶ	ペットと遊ぶ	勉強する	趣味として料理	眠る	その他	何もしない
性別	全体	381 23.2	352 21.5	171 10.4	1106 67.4	50 3.0	218 13.3	367 22.4	240 14.6	133 8.1	136 8.3	70 4.3	420 25.6	41 2.5	1 0.1
	男性	193 23.5	247 30.1	98 12.0	574 70.0	22 2.7	77 9.4	181 22.1	79 9.6	38 4.6	97 11.8	25 3.0	180 22.0	19 2.3	0 0.0
	女性	188 22.9	105 12.8	73 8.9	532 64.9	28 3.4	141 17.2	186 22.7	161 19.6	95 11.6	39 4.8	45 5.5	240 29.3	22 2.7	1 0.1

性別、既婚未婚別のベスト3を、表22に示す。

表 22 性別・既婚未婚別休日の過ごし方ベスト3

	第1位	第2位	第3位
未婚男性	ネット、メール	スポーツ	行楽、散策
既婚男性	スポーツ	子供	ネット、メール
未婚女性	買物	映画、演劇	睡眠
既婚女性	買物	行楽、散策	ネット、メール

2. 暮らし方

どんな暮らし方をしたいか19の項目について尋ねた。団塊世代との違いを見るため、14項目は都市生活研究所が団塊世代に行った調査と全く同じ質問とし、5項目は対になるような質問とした。

まず、同一質問の回答を比較してみる。両世代とも半数以上が「あてはまる」と賛同した暮らし方を、表23に示す。団塊世代の関心は「健康な食」「環境」「家族」である。ジュニア世代もこれらには関心があるが度合いが違う。一方ジュニア世代では「友達」「チャレンジ」と若者らしさがうかがわれるが、「金をかけない」ことも大切なことになっている。

次に、「あてはまる」としたのが半数以下の項目を見る(表24)。団塊世代では2、3割はボランティアや町内会をしたいとしているが、ジュニアでは半数以下になる。インパクトある仕事や会社設立はジュニアの方が多いが割合そのものは高くない。

表 23 賛同者が半数以上いる「暮らし方」

	暮らし方	団塊世代での割合	ジュニア世代での割合
団塊世代の方が賛同率が高いもの	健康な食生活を心がけたい	94.4	82.5
	環境にやさしい生活をしたい	82.8	59.9
	家族との時間を大切にする	85.8	75.1
ジュニア世代の方が賛同率の高いもの	お金をかけずに暮らした	58.1	73.0
	友達を家に招いたり、招かれたりしたい	52.1	61.3
	いつも新しいことにチャレンジしたい	48.5	61.3
両世代に大きな差がないもの	一人の時間を大切にする	72.5	79.2
	のんびり生活したい	89.4	84.5
	趣味を大切に暮らしたい	86.3	85.4

表 24 賛同者が半数以下の「暮らし方」

	暮らし方	団塊世代での割合	ジュニア世代での割合
団塊世代の方が賛同率が高い	ボランティア活動をしたい	34.6	18.5
	町内会などの地域活動	21.1	11.6
ジュニア世代の方が賛同率が高い	社会にインパクトを与える仕事	14.2	25.8
	会社またはNPOを設立したい	5.8	14.7
両世代に大きな差がないもの	地域の人と交流したい	46.1	37.8

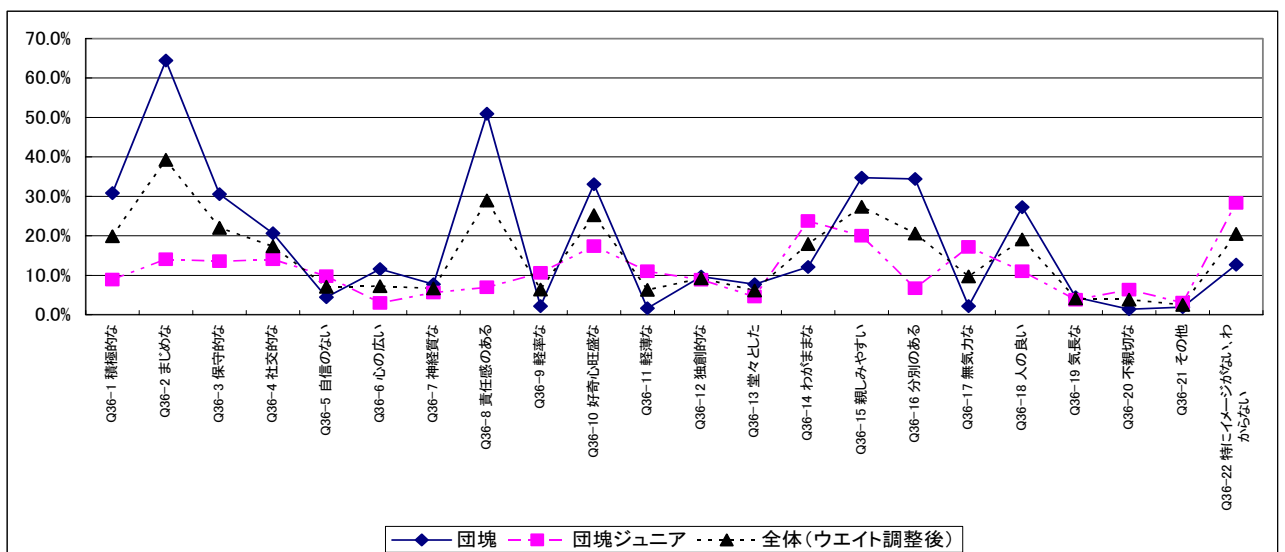
表 25 は、対になる質問の回答結果である。これを見る限り、ジュニア世代は親世代より生真面目だといえよう。しかし一方で、「会社などの地位の向上を目指したい」に対する回答は、「あてはまる」「あてはまらない」「どちらとも言えない」が全く 1/3 ずつであった。これを、意欲がないと見るか、自然体と見るかは評価が分かれようが、いずれにしても捉え難い世代ではある。

表 25 対になる「暮らし方」

	団塊世代の 賛同率	ジュニア世 代の賛同率
出来る限り子供を支援したい	32.1	—
出来る限り親の面倒を見たい	—	60.2
若い人と交流したい	28.0	—
年長の人と交流したい	—	31.8
収入の伴い仕事がしたい	50.1	—
より多くの収入を得るように 努力したい	—	65.3

3. 自らの世代イメージ

これも親世代との比較のために、団塊世代を対象に行った調査と全く同じ設問で、自らの世代イメージを尋ねた。団塊世代で 3 割以上が自らの世代のイメージとしたのは、まじめ、責任感のある、親しみやすい、分別のある、好奇心旺盛な、積極的な、保守的な、といったものである。これに対し、ジュニアは 3 割以上が世代イメージに合うとしたものはなく、イメージがないが唯一 3 割を占めた。日頃団塊ジュニアという意識が薄いのであろう。それでも、2 割前後が世代イメージとするのは、わがままな、親しみやすい、好奇心旺盛な、無気力な、といった言葉である。



参考文献

参考文献

- 国勢調査報告（昭和 25 年、昭和 50 年、平成 12 年）
国土交通省（2003）「平成 15 年住宅需要実態調査」
国土交通省（2003）「平成 14 年度土地の動向に関する年次報告」
国立社会保障・人口問題研究所（2003）「人口統計資料集 2003」
住宅経済データ集（2002）（住宅産業新聞社）
総務省統計局（2004）「平成 15 年住宅・土地統計調査」
総務省統計局（1999）「平成 11 年全国消費実態調査」
東京ガス㈱都市生活研究所（2003）『生活レシピ 2004「団塊の行方」～ライフスタイル
を考える～』
内閣府（2003）「国民生活に関する世論調査」（平成 15 年 6 月調査）
内閣府（2003）「国民生活白書」
内閣府（2002）「社会意識に関する世論調査」（平成 14 年 12 月調査）
三浦展（2002）「これからの 10 年 団塊ジュニア 1400 万人がコア市場になる！ マーケ
ティングの狙い目はここだ！」（中経出版）
三浦展（2001）「マイホームレス・チャイルド 今どきの若者を理解するための 23 の視
点」
（株式会社クラブハウス）
矢野経済研究所『団塊ジュニアの「住まい」に関する意識調査』
（2002 年 4 月 18 日付けプレスリリース）

（参照 Web Site）

- 「平成 12 年国勢調査 第 1 次基本集計結果 わが国の人口ピラミッド」
<http://www.stat.go.jp/info/guide/asu/2002/8-06-083.htm>
「平成 15 年度住宅需要実態調査の調査結果（速報）」（国土交通省住宅局住宅政策課）
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha04/07/070428_.html
金融広報中央委員会「家計の金融資産に関する世論調査 全国階層別データ
（平成 15 年）」
<http://www.saveinfo.or.jp/kinyu/yoron/per03.html#01>
金融広報中央委員会「暮らしと金融なんでもデータ（平成 14 年度版）」
<http://www.saveinfo.or.jp/kinyu/kinyu.html#04>

参考資料

「団塊ジュニアの住宅に関する調査」

及び調査結果

参考資料 「団塊ジュニアの住宅に関する調査」及び調査結果

団塊ジュニアの住宅に関する調査

下記アンケートにご協力お願いいたします。

Q1 現在～出生時のご住所の変遷についてお答えください。 ※東京近辺とは [東京・神奈川県・千葉・埼玉・茨城] を指します。【必須入力】

- 1. ずっと東京近辺に住んでいる
- 2. 1回住所を変更している ⇒現在 [東京近辺] /出生時 [東京近辺]
- 3. 1回住所を変更している ⇒現在 [東京近辺] /出生時 [その他道府県]
- 4. 2回以上住所を変更している ⇒現在 [東京近辺] /直近 [東京近辺] /出生時 [東京近辺]
- 5. 2回以上住所を変更している ⇒現在 [東京近辺] /直近 [東京近辺] /出生時 [その他道府県]
- 6. 2回以上住所を変更している ⇒現在 [東京近辺] /直近 [その他道府県]

Q2 現在の住所を 【市区町村】 まででお答えください。

例) 東京都渋谷区【必須入力】

()

住所を1回以上変更され、出生時の住所が [東京近辺] の方にお伺いします。【この質問はQ1で2,4,6と答えた方のみお答えください】

Q3 出生時の住所を 【市区町村】 まででお答えください。 例) 東京都渋谷区

※わからない場合は「不明」とご記入ください。【必須入力】

住所を2回以上変更され、直近の住所が [東京近辺] の方のみお答えください。【この質問はQ1で4,5と答えた方のみお答えください】

Q4 直近の住所を 【市区町村】 まででお答えください。 例) 東京都渋谷区

※わからない場合は「不明」とご記入ください。【必須入力】

Q5 現在の住居の住宅形式を以下の中からお答えください。【必須入力】

- 1. 民間賃貸住宅 (アパート、賃貸マンションなど)

- 2. 民間賃貸住宅（戸建・長屋建）
- 3. 公共賃貸住宅
- 4. 戸建て持家
- 5. 分譲マンション
- 6. 社宅・官舎・寮
- 7. その他（ ）
- 8. 不明

住所を1回以上変更された方にお伺いします。【この質問は Q1 で 2～7 と答えた方のみお答えください】

Q 6 出生時の住居の住宅形式を以下の中からお答えください。【必須入力】

- 1. 民間賃貸住宅（アパート、賃貸マンションなど）
- 2. 民間賃貸住宅（戸建・長屋建）
- 3. 公共賃貸住宅
- 4. 戸建て持家
- 5. 分譲マンション
- 6. 社宅・官舎・寮
- 7. その他（ ）
- 8. 不明

住所を2回以上変更された方にお伺いします。【この質問は Q1 で 4～7 と答えた方のみお答えください】

Q 7 直近の住居の住宅形式を以下の中からお答えください。【必須入力】

- 1. 民間賃貸住宅（アパート、賃貸マンションなど）
- 2. 民間賃貸住宅（戸建・長屋建）
- 3. 公共賃貸住宅
- 4. 戸建て持家
- 5. 分譲マンション
- 6. 社宅・官舎・寮
- 7. その他（ ）
- 8. 不明

Q 8 現在の住宅と一緒に住んでいるのはどなたですか。該当するもの全てをお答えくだ

さい。【必須入力】

- 1. 自分のみ（単身住まい）
- 2. 配偶者
- 3. 子
- 4. 親（自分自身の）
- 5. 親（配偶者の）
- 6. 兄弟姉妹
- 7. 友人
- 8. その他（ ）

【この質問は Q8 で 2～8 と答えた方のみお答えください】

Q 9 現在一緒に住んでいる同居者の人数をお答えください。（ご自身も含めて）【必須入力】

- 1. 2人
- 2. 3人
- 3. 4人
- 4. 5人
- 5. 6人以上

【この質問は Q8 で（自分自身または配偶者の）親と答えた方のみお答えください】

Q 10 親と一緒に住んでいる理由はなんですか。（3つまで）【必須入力】（3個まで選択）

- 1. 親と暮らすのが当然だと思うから
- 2. 親と一緒に暮らすことを希望しているから
- 3. 経済的に有利だから（別居は経済的に苦しいから）
- 4. 日常生活で便利だから（親に世話をしてもらえるから）
- 5. 親の介護をしなければならないから
- 6. 長男・長女（もしくは後継ぎ）だから
- 7. 職場に近いから
- 8. 未婚だから
- 9. 一時的な同居
- 10. その他（ ）
- 11. 特に理由はなく、何となく

【この質問は Q8 で（自分自身または配偶者の）親と答えた方のみお答えください】

Q 1 1 親から独立し別居するお考えはありますか？【必須入力】

- 1. 独立する具体的な予定がある
- 2. できるだけ早く独立したい
- 3. 折を見て独立したい
- 4. 当面独立するつもりはない
- 5. 特に考えてない

【この質問は Q8 で 4,5 を選ばなかった方（親と同居していない方）のみお答えください】

Q 1 2 どのようなきっかけで親から独立（別居）しましたか？

- 1. 独立する具体的な予定がある
- 2. できるだけ早く独立したい
- 3. 折を見て独立したい
- 4. 当面独立するつもりはない
- 5. 特に考えてない

【この質問は Q8 で 4,5 を選ばなかった方（親と同居していない方）のみお答えください】

Q 1 3 どのようなきっかけで親から独立（別居）しましたか？

- 1. 進学・進級の際
- 2. 就職の際
- 3. 結婚の際
- 4. 転勤の際
- 5. 就職はしないが卒業の際
- 6. 特にきっかけはない

【この質問は Q8 で 4,5 を選ばなかった方（親と同居していない方）のみお答えください】

Q 1 4 具体的にどのような理由で親から独立しましたか？

- 1. 通学先・勤務先が遠方になり、とても通えなかったから
- 2. 親から干渉されたくなかったから
- 3. 自由に友人を家に招きたいから
- 4. 通勤・通学・買い物などのより利便性の高い場所に住みたかったから
- 5. 居室が狭かったから
- 6. 親から独立するのが当然だと思ったから

- 7. 別居するのに必要な資金が確保できたから
- 8. その他 ()

【この質問は Q8 で 4,5 を選ばなかった方 (親と同居していない方) のみお答えください】

Q 1 5 あなたは何年前に親から独立されましたか？独立された時期を以下からお答えください。

- 1. ~2 年未満
- 2. 2~4 年未満
- 3. 4~6 年未満
- 4. 6~8 年未満
- 5. 8~10 年未満
- 6. 10~12 年未満
- 7. それより以前
- 8. 覚えていない

【この質問は Q8 で 4,5 を選ばなかった方 (親と同居していない方) のみお答えください】

Q 1 6 現在、親世帯とはどのような関係ですか。

- 1. 親の近くに住んでいる
- 2. 親を経済的に援助している
- 3. 親の介護をしている
- 4. 親から経済的援助を受けている
- 5. 親から生活面で面倒を見てもらっている
- 6. 親に子育てを手伝ってもらっている
- 7. 経済的に援助しあうような関係はない
- 8. その他 ()

【この質問は Q8 で 4,5 を選ばなかった方 (親と同居していない方) のみお答えください】

Q 1 7 どのくらいの頻度で親と交流をお持ちですか？

- | | 1. | 2. |
|--------|-----------------------|-----------------------|
| | お互いの家に行ったりして顔を合わせる | 電話・メールのやり取り |
| 1 週に数回 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2 月に数回 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3 年に数回 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

4 全く／ほとんどない

Q18 あなたは「家を買う、借りる、直す」など住宅を変更する意向・計画をお持ちですか。【必須入力】

- 1. 具体的な計画がある
- 2. 具体的ではないが、2～3年後には実現したい
- 3. 具体的ではないが、5年程度先には実現したい
- 4. さしあたり何も考えていない

【この質問は Q17 で 1,2,3 と答えた方のみお答えください】

Q19 住宅を変更する内容は次のうちどれですか。主に検討しているものをお答えください。【必須入力】

- 1. 戸建住宅を新築する
- 2. 戸建住宅を購入する
- 3. 分譲マンションを購入する
- 4. 家を借りる（別の賃貸住宅に移り住む）
- 5. 家をリフォームする
- 6. 寮や社宅に入る
- 7. 親元に行く
- 8. その他（ ）

【この質問は Q17 で 1,2,3 と答えた方のみお答えください】

Q20 Q17 でお答えの住宅変更の目的は次のうちどれに当たりますか。【必須入力】

- 1. 結婚や就職などで独立するから
- 2. 現在の住宅の広さに問題があるから
- 3. 現在の住宅の設備や内装に問題があるから
- 4. 現在の住宅が老朽化したから
- 5. 通勤、通学、買い物などの利便性が良くなるから
- 6. 日当たり、騒音、子供の遊び場などの環境条件を良くしたいから
- 7. 近所づきあいが上手くいかないから
- 8. 子供の教育のために
- 9. 防災や治安に優れたところに移りたいから
- 10. 持家が欲しいから
- 11. 住居費の負担を減らしたいから

○12. その他 ()

Q 2 1 あなたは休日はどのように過ごしていますか。【必須入力】

- 1. ほとんど家か近所で過ごし、外出するのは稀
- 2. 大半は家か近所で過ごすが、たまには外出する (休日の1 / 3程度)
- 3. 家か近所で過ごすのと外出するのがほぼ半々
- 4. 大半は外出する (休日の2 / 3程度)
- 5. ほとんど外出し、一日家にいるのは稀

Q 2 2 休日の「自分で自由に使える時間」に楽しむ項目を以下の中から5つまでお選びください。【必須入力】(5個まで選択)

- 1. スポーツをする
- 2. スポーツ観戦 (テレビでの観戦は除く)
- 3. 買い物
- 4. 行楽・散策など
- 5. 映画鑑賞・観劇
- 6. 趣味・習い事
- 7. 自己啓発 (通学)
- 8. ボランティア
- 9. ギャンブル (競馬、パチンコなど)
- 10. 喫茶・飲食
- 11. マッサージ、リラクゼーション
- 12. 美容関係
- 13. テレビを見る
- 14. ビデオを見る
- 15. テレビゲーム
- 16. ラジオや音楽を楽しむ
- 17. インターネット、Eメール
- 18. 電話
- 19. 家族との会話
- 20. 新聞・雑誌・本を読む
- 21. 子供と遊ぶ
- 22. ペットと遊ぶ

- 23. 勉強する
- 24. 趣味として料理
- 25. 眠る
- 26. その他 ()
- 27. 何もしない

【この質問は Q21 で 1～26 と答えた方のみお答えください】

Q 2 2 Q21 でお答えの項目の中で、あなたにとって最も魅力的なものを 1 つお選びください。【必須入力】

- 1. スポーツをする
- 2. スポーツ観戦 (テレビでの観戦は除く)
- 3. 買い物
- 4. 行楽・散策など
- 5. 映画鑑賞・観劇
- 6. 趣味・習い事
- 7. 自己啓発 (通学)
- 8. ボランティア
- 9. ギャンブル (競馬、パチンコなど)
- 10. 喫茶・飲食
- 11. マッサージ、リラクゼーション
- 12. 美容関係
- 13. テレビを見る
- 14. ビデオを見る
- 15. テレビゲーム
- 16. ラジオや音楽を楽しむ
- 17. インターネット、Eメール
- 18. 電話
- 19. 家族との会話
- 20. 新聞・雑誌・本を読む
- 21. 子供と遊ぶ
- 22. ペットと遊ぶ
- 23. 勉強する
- 24. 趣味として料理
- 25. 眠る
- 26. その他 ()

Q 2 3 あなたは今後の生活をどのように過ごしたいと思いますか。以下にあげる考え方や行動に関して、それぞれあてはまるものをお答えください。【必須入力】

非常にあてはまる	ややあてはまる	どちらとも言えない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
----------	---------	-----------	------------	-----------

- | | | | | | |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 地域の人と交流したい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2. 年長の人と交流したい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3. 友人を家に招いたり、招かれたりしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4. 一人の時間を大切にしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 5. 家族との時間を大切にしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6. 友人仲間との時間を大切にしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 7. 環境にやさしい生活をしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 8. 健康な食生活を心がけたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 9. できるだけお金をかけずに暮らしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 10. のんびりした生活をしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 11. いつも新しいことにチャレンジしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 12. 趣味を大切に暮らしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 13. 会社などでの地位の向上を目指したい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 14. より多くの収入を得るよう努力したい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 15. 会社またはNPOを設立したい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 16. 社会にインパクトを与える仕事がしたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 17. 町内会などの地域活動を行いたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 18. ボランティア活動を行いたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 19. できる限り親の面倒は見たい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q 2 4 将来親との同居についてはどうお考えですか。(現在同居されている方は、今後の意向についてお答えください) ※選択肢 2,3,4にある「近居」とは、10分程度で行き来できる処に住むことをいいます。【必須入力】

1. 将来的に同居を考えている

- 2. 将来的に近居を考えている
- 3. 将来的に同居または近居を考えている
- 4. 将来的に同居も近居も考えていない
- 5. まだ決めていない

Q 2 5 あなたの世代(1973～80年生まれ)は、団塊ジュニア世代と呼ばれたりしますが、ご自分と同年令の人々に対してどんなイメージを持っていますか？【必須入力】

- 1. 積極的な
- 2. まじめな
- 3. 保守的な
- 4. 社交的な
- 5. 自信のない
- 6. 心の広い
- 7. 神経質な
- 8. 責任感のある
- 9. 軽率な
- 10. 好奇心旺盛な
- 11. 軽薄な
- 12. 独創的な
- 13. 堂々とした
- 14. わがままな
- 15. 親しみやすい
- 16. 分別のある
- 17. 無気力な
- 18. 人の良い
- 19. 気長な
- 20. 不親切な
- 21. その他 ()
- 22. 特にイメージがない・わからない

Q 2 6 将来相続できる親の家または土地がありますか。また、ある場合は、その家や土地をどうされますか。

- 1. 相続できる家または土地があり、それを相続し、その家または土地に住む

- 2. 相続できる家または土地があり、それを相続するが、その家または土地には住まない
- 3. 相続できる家または土地があり、それを相続するが、その家または土地に住むかどうか分からない
- 4. 相続できる家または土地があるが、相続するつもりはない
- 5. 相続できる家または土地はない

Q 2 7 5年から10年程先に最も住みたいと思う場所をお答えください。【必須入力】

- 1. 東京の都心地域（千代田、中央、港、渋谷、新宿）
- 2. 選択肢1以外の東京23区
- 3. 東京23区を除く首都圏（東京都、神奈川県・千葉県・埼玉県・茨城県）
- 4. 首都圏以外の大都市圏
- 5. 地方都市（大都市）
- 6. 地方都市（中小都市）
- 7. 農山漁村部
- 8. 外国（国名： ）
- 9. その他（ ）
- 10. 特になし／わからない

Q 2 8 近い将来転職したいですか。【必須入力】

- 1. 是非転職したい
- 2. 出来れば転職したい
- 3. 出来れば転職したくない
- 4. 転職するつもりは全くない
- 5. その他
- 6. 特に考えていない

Q 2 9 あなたの個人年収（税込み）をお知らせ下さい。【必須入力】

- 1. 150万円未満
- 2. 150～300万円未満
- 3. 300～500万円未満
- 4. 500～700万円未満
- 5. 700～1000万円未満

- 6. 1000 万円以上
- 7. わからない

Q30 あなたの預貯金・有価証券などの資産（不動産資産は除く）総額をお知らせ下さい。【必須入力】

- 1. 150 万円未満
- 2. 150～300 万円未満
- 3. 300～500 万円未満
- 4. 500～700 万円未満
- 5. 700～1000 万円未満
- 6. 1000～1500 万円未満
- 7. 1500～2000 万円未満
- 8. 2000 万円以上
- 9. わからない

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

アンケート結果(単純集計)

アンケート回答者の属性

性別	度数	パーセント
男性	820	50.0
女性	820	50.0
全体	1640	100.0

年齢	度数	パーセント
20才～24才	207	12.6
25才～29才	1092	66.6
30才～34才	341	20.8
全体	1640	100.0

職業	度数	パーセント
公務員	58	3.5
経営者・役員	9	0.5
会社員(事務系)	274	16.7
会社員(技術系)	364	22.2
会社員(その他)	162	9.9
自営業	38	2.3
自由業	26	1.6
専業主婦	276	16.8
パート・アルバイト	216	13.2
学生	108	6.6
その他	109	6.6
全体	1640	100.0

Q1	現在～出生時の住所の変遷	度数	パーセント
1	ずっと東京近辺に住んでいる	317	19.3
2	1回住所を変更している 現在[東京近辺] / 出生時[東京近辺]	173	10.5
3	1回住所を変更している 現在[東京近辺] / 出生時[その他道府]	106	6.5
4	2回以上住所を変更している 現在[東京近辺] / 直近[東京近辺] / 出生時[東京近辺]	389	23.7
5	2回以上住所を変更している 現在[東京近辺] / 直近[東京近辺] / 出生時[その他道]	331	20.2
6	2回以上住所を変更している 現在[東京近辺] / 直近[その他道府県] / 出生時[東京]	118	7.2
7	2回以上住所を変更している 現在[東京近辺] / 直近[その他道府県] / 出生時[その他道府県]	206	12.6
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

Q5	現在の住居の住宅形式	度数	パーセント
1	民間賃貸住宅(アパート、賃貸マンションな	735	44.8
2	民間賃貸住宅(戸建・長屋建)	46	2.8
3	公共賃貸住宅	75	4.6
4	戸建て持家	453	27.6
5	分譲マンション	205	12.5
6	社宅・官舎・寮	104	6.3
7	その他	16	1.0
8	不明	6	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

[Q1で2, 3, 4, 5, 6, 7]

Q6	出生時の住居の住宅形式	度数	パーセント
1	民間賃貸住宅(アパート、賃貸マンションな	313	23.7
2	民間賃貸住宅(戸建・長屋建)	132	10.0
3	公共賃貸住宅	96	7.3
4	戸建て持家	521	39.4
5	分譲マンション	41	3.1
6	社宅・官舎・寮	142	10.7
7	その他	9	0.7
8	不明	69	5.2
	無回答	0	0.0
	全体	1323	100.0

[Q1で4, 5, 6, 7]

Q7	直近の住居の住宅形式	度数	パーセント
1	民間賃貸住宅(アパート、賃貸マンションな	588	56.3
2	民間賃貸住宅(戸建・長屋建)	47	4.5
3	公共賃貸住宅	36	3.4
4	戸建て持家	181	17.3
5	分譲マンション	65	6.2
6	社宅・官舎・寮	119	11.4
7	その他	4	0.4
8	不明	4	0.4
	無回答	0	0.0
	全体	1044	100.0

Q8	現在の住宅の同居者	度数	パーセント
1	自分のみ(単身住まい)	385	23.5
2	配偶者	640	39.0
3	子	367	22.4
4	親(自分自身の)	533	32.5
5	親(配偶者の)	33	2.0
6	兄弟姉妹	295	18.0
7	友人	38	2.3
8	その他	91	5.5
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

[Q8で2, 3, 4, 5, 6, 7, 8]

Q9	同居者の人数	度数	パーセント
1	2人	384	30.6
2	3人	427	34.0
3	4人	305	24.3
4	5人	95	7.6
5	6人以上	44	3.5
	無回答	0	0.0
	全体	1255	100.0

[Q8で4, 5]

Q10	親と一緒に住んでいる理由(3つまで)	度数	パーセント
1	親と暮らすのが当然だと思うから	94	16.6
2	親と一緒に暮らすことを希望しているから	52	9.2
3	経済的に有利だから(別居は経済的に苦しいから)	393	69.4
4	日常生活で便利だから(親に世話をしてもらえるから)	216	38.2
5	親の介護をしなければならないから	14	2.5
6	長男・長女(もしくは後継ぎ)だから	54	9.5
7	職場に近いから	76	13.4
8	未婚だから	259	45.8
9	一時的な同居	21	3.7
10	その他	20	3.5
11	特に理由はなく、何となく	23	4.1
	無回答	0	0.0
	全体	566	100.0

[Q8で4, 5]

Q11	親から独立し別居する希望の有	度数	パーセント
1	独立する具体的な予定がある	57	10.1
2	できるだけ早く独立したい	87	15.4
3	折を見て独立したい	208	36.7
4	当面独立するつもりはない	109	19.3
5	特に考えてない	105	18.6
	無回答	0	0.0
	全体	566	100.0

[Q8で1, 2, 3, 6, 7, 8]

Q12	独立(別居)のきっかけ	度数	パーセント
1	進学・進級の際	337	23.8
2	就職の際	217	15.3
3	結婚の際	357	25.2
4	転勤の際	24	1.7
5	就職はしないが卒業の際	10	0.7
6	特にきっかけはない	124	8.8
	無回答	346	24.5
	全体	1415	100.0

[Q8で1, 2, 3, 6, 7, 8]

Q13	具体的な独立の理由	度数	パーセント
1	通学先・勤務先が遠方になり、とても通えなかったから	478	33.8
2	親から干渉されたくなかったから	186	13.1
3	自由に友人を家に招きたいから	46	3.3
4	通勤・通学・買い物などのより利便性の高い場所に住みたかったから	137	9.7
5	居室が狭かったから	58	4.1
6	親から独立するのが当然だと思ったから	417	29.5
7	別居するのに必要な資金が確保できたから	45	3.2
8	その他	64	4.5
	無回答	389	27.5
	全体	1415	100.0

[Q8で1, 2, 3, 6, 7, 8]

	何年前に親から独立したか	度数	パーセント
1	～2年未満	132	9.3
2	2～4年未満	193	13.6
3	4～6年未満	234	16.5
4	6～8年未満	178	12.6
5	8～10年未満	149	10.5
6	10～12年未満	138	9.8
7	それより以前	18	1.3
8	覚えていない	1	0.1
	無回答	372	26.3
	全体	1415	100.0

[Q8で1, 2, 3, 6, 7, 8]

Q15	親世帯との関係	度数	パーセント
1	親の近くに住んでいる	287	20.3
2	親を経済的に援助している	41	2.9
3	親の介護をしている	4	0.3
4	親から経済的援助を受けている	95	6.7
5	親から生活面で面倒を見てもらっている	27	1.9
6	親に子育てを手伝ってもらっている	48	3.4
7	経済的に援助しあうような関係はない	635	44.9
8	その他	32	2.3
	無回答	373	26.4
	全体	1415	100.0

[Q8で1, 2, 3, 6, 7, 8]

Q16	親との交流頻度 (マトリクス・単一回答)	全体		週に数回		月に数回	
		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
	1 お互いの家に行ったりして顔を合わせる	1415	100.0	120	8.5	260	18.4
	2 電話・メールのやり取り	1415	100.0	334	23.6	495	35.0
	全体(積み上げ)	2830	100.0	454	16.0	755	26.7
	親との交流頻度 (マトリクス・単一回答)	年に数回		全く/ほとんどない		無回答	
		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
	1 お互いの家に行ったりして顔を合わせる	581	41.1	86	6.1	368	26.0
	2 電話・メールのやり取り	162	11.4	51	3.6	373	26.4
	全体(積み上げ)	743	26.3	137	4.8	741	26.2

Q17	住宅変更の意向・計画の有無	度数	パーセント
1	具体的な計画がある	182	11.1
2	具体的ではないが、2～3年後には実現した	386	23.5
3	具体的ではないが、5年程度先には実現した	353	21.5
4	さしあたり何も考えていない	719	43.8
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

[Q17で1, 2, 3]

Q18	変更する内容	度数	パーセント
1	戸建住宅を新築する	119	12.9
2	戸建住宅を購入する	123	13.4
3	分譲マンションを購入する	251	27.3
4	家を借りる(別の賃貸住宅に移り住む)	335	36.4
5	家をリフォームする	42	4.6
6	寮や社宅に入る	20	2.2
7	親元に行く	14	1.5
8	その他	17	1.8
	無回答	0	0.0
	全体	921	100.0

[Q17で1, 2, 3]

Q19	住宅変更の目的	度数	パーセント
1	結婚や就職などで独立するから	221	24.0
2	現在の住宅の広さに問題があるから	256	27.8
3	現在の住宅の設備や内装に問題があるから	159	17.3
4	現在の住宅が老朽化したから	76	8.3
5	通勤、通学、買い物などの利便性が良くなる	166	18.0
6	日当たり、騒音、子供の遊び場などの環境条件を良くしたいから	129	14.0
7	近所づきあいが上手くいかないから	12	1.3
8	子供の教育のために	64	6.9
9	防災や治安に優れたところに移りたいから	24	2.6
10	持家が欲しいから	253	27.5
11	住居費の負担を減らしたいから	114	12.4
12	その他	69	7.5
	無回答	0	0.0
	全体	921	100.0

Q20	休日の過ごし方	度数	パーセント
1	ほとんど家か近所で過ごし、外出するのは稀	174	10.6
2	大半は家か近所で過ごす、たまには外出する(休日の1/3程度)	468	28.5
3	家か近所で過ごすのと外出するのがほぼ半々	549	33.5
4	大半は外出する(休日の2/3程度)	317	19.3
5	ほとんど外出し、一日家にいるのは稀	132	8.0
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

Q21	休日の自由時間を楽しむ項目(5つまで)	度数	パーセント
1	スポーツをする	330	20.1
2	スポーツ観戦(テレビでの観戦は除く)	177	10.8
3	買い物	968	59.0
4	行楽・散策など	414	25.2
5	映画鑑賞・観劇	497	30.3
6	趣味・習い事	313	19.1
7	自己啓発(通学)	37	2.3
8	ボランティア	8	0.5
9	ギャンブル(競馬、パチンコなど)	148	9.0
10	喫茶・飲食	184	11.2
11	マッサージ、リラクゼーション	83	5.1
12	美容関係	51	3.1
13	テレビを見る	687	41.9
14	ビデオを見る	381	23.2
15	テレビゲーム	352	21.5
16	ラジオや音楽を楽しむ	171	10.4
17	インターネット、Eメール	1106	67.4
18	電話	50	3.0
19	家族との会話	218	13.3
20	新聞・雑誌・本を読む	367	22.4
21	子供と遊ぶ	240	14.6
22	ペットと遊ぶ	133	8.1
23	勉強する	136	8.3
24	趣味として料理	70	4.3
25	眠る	420	25.6
26	その他	41	2.5
27	何もしない	1	0.1
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

[Q21で27以外]

	最も魅力的な休日の過ごし方	度数	パーセント
1	スポーツをする	161	9.8
2	スポーツ観戦(テレビでの観戦は除く)	58	3.5
3	買い物	224	13.7
4	行楽・散策など	149	9.1
5	映画鑑賞・観劇	111	6.8
6	趣味・習い事	111	6.8
7	自己啓発(通学)	5	0.3
8	ボランティア	3	0.2
9	ギャンブル(競馬、パチンコなど)	35	2.1
10	喫茶・飲食	25	1.5
11	マッサージ、リラクゼーション	28	1.7
12	美容関係	8	0.5
13	テレビを見る	40	2.4
14	ビデオを見る	28	1.7
15	テレビゲーム	43	2.6
16	ラジオや音楽を楽しむ	22	1.3
17	インターネット、Eメール	200	12.2
18	電話	2	0.1
19	家族との会話	44	2.7
20	新聞・雑誌・本を読む	47	2.9
21	子供と遊ぶ	76	4.6
22	ペットと遊ぶ	38	2.3
23	勉強する	23	1.4
24	趣味として料理	14	0.9
25	眠る	121	7.4
26	その他	23	1.4
	無回答	0	0.0
	全体	1639	100.0

Q23	今後の生活希望	全体		非常にあてはまる		ややあてはまる	
		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1	地域の人と交流した	1640	100.0	130	7.9	490	29.9
2	年長の人と交流した	1640	100.0	93	5.7	428	26.1
3	友人を家に招いたり、招かれたりしたい	1640	100.0	344	21.0	717	43.7
4	一人の時間を大切にしたい	1640	100.0	537	32.7	763	46.5
5	家族との時間を大切にしたい	1640	100.0	576	35.1	656	40.0
6	友人仲間との時間を大切にしたい	1640	100.0	457	27.9	861	52.5
7	環境にやさしい生活をしたい	1640	100.0	280	17.1	702	42.8
8	健康な食生活を心がけたい	1640	100.0	548	33.4	806	49.1
9	できるだけお金をかけずに暮らしたい	1640	100.0	529	32.3	668	40.7
10	のんびりした生活をしたい	1640	100.0	699	42.6	687	41.9
11	いつも新しいことにチャレンジしたい	1640	100.0	329	20.1	677	41.3
12	趣味を大切に暮らしたい	1640	100.0	620	37.8	780	47.6
13	会社などでの地位の向上を目指したい	1640	100.0	153	9.3	396	24.1
14	より多くの収入を得るよう努力したい	1640	100.0	368	22.4	703	42.9
15	会社または度数POを設立したい	1640	100.0	82	5.0	159	9.7
16	社会にインパクトを与える仕事がしたい	1640	100.0	148	9.0	276	16.8
17	町内会などの地域活動を行いたい	1640	100.0	39	2.4	151	9.2
18	ボランティア活動を行いたい	1640	100.0	56	3.4	247	15.1
19	できる限り親の面倒は見たい	1640	100.0	322	19.6	675	41.2
	全体(積み上げ)	31160	100.0	6310	20.3	10842	34.8
	今後の生活希望	どちらとも言えない		あまりあてはまらない		全くあてはまらない	
		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1	地域の人と交流した	469	28.6	360	22.0	191	11.6
2	年長の人と交流した	588	35.9	352	21.5	179	10.9
3	友人を家に招いたり、招かれたりしたい	358	21.8	148	9.0	73	4.5
4	一人の時間を大切にしたい	253	15.4	71	4.3	16	1.0
5	家族との時間を大切にしたい	304	18.5	70	4.3	34	2.1
6	友人仲間との時間を大切にしたい	261	15.9	42	2.6	19	1.2
7	環境にやさしい生活をしたい	474	28.9	128	7.8	56	3.4
8	健康な食生活を心がけたい	222	13.5	46	2.8	18	1.1
9	できるだけお金をかけずに暮らしたい	326	19.9	98	6.0	19	1.2
10	のんびりした生活をしたい	203	12.4	42	2.6	9	0.5
11	いつも新しいことにチャレンジしたい	468	28.5	138	8.4	28	1.7
12	趣味を大切に暮らしたい	209	12.7	24	1.5	7	0.4
13	会社などでの地位の向上を目指したい	556	33.9	369	22.5	166	10.1
14	より多くの収入を得るよう努力したい	388	23.7	139	8.5	42	2.6
15	会社または度数POを設立したい	408	24.9	378	23.0	613	37.4
16	社会にインパクトを与える仕事がしたい	465	28.4	377	23.0	374	22.8
17	町内会などの地域活動を行いたい	504	30.7	507	30.9	439	26.8
18	ボランティア活動を行いたい	560	34.1	416	25.4	361	22.0
19	できる限り親の面倒は見たい	478	29.1	99	6.0	66	4.0
	全体(積み上げ)	7494	24.1	3804	12.2	2710	8.7

Q24	将来の親との同居の考え	度数	パーセント
1	将来的に同居を考えている	254	15.5
2	将来的に近居を考えている	208	12.7
3	将来的に同居または近居を考えている	241	14.7
4	将来的に同居も近居も考えていない	265	16.2
5	まだ決めていない	672	41.0
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

Q25	同世代に対するイメージ	度数	パーセント
1	積極的な	146	8.9
2	まじめな	230	14.0
3	保守的な	222	13.5
4	社交的な	230	14.0
5	自信のない	160	9.8
6	心の広い	49	3.0
7	神経質な	92	5.6
8	責任感のある	114	7.0
9	軽率な	174	10.6
10	好奇心旺盛な	285	17.4
11	軽薄な	180	11.0
12	独創的な	145	8.8
13	堂々とした	75	4.6
14	わがまま	389	23.7
15	親しみやすい	328	20.0
16	分別のあ	110	6.7
17	無気力な	282	17.2
18	人の良い	180	11.0
19	気長な	62	3.8
20	不親切な	104	6.3
21	その他	50	3.0
22	特にイメージがない・わからない	465	28.4
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

Q26	相続できる土地の有無とその使い方予定	度数	パーセント
1	相続できる家または土地があり、それを相続し、その家または土地に住む	212	12.9
2	相続できる家または土地があり、それを相続するが、その家または土地には住まない	177	10.8
3	相続できる家または土地があり、それを相続するが、その家または土地に住むかどうか分からない	579	35.3
4	相続できる家または土地があるが、相続するつもりはない	254	15.5
5	相続できる家または土地はない	408	24.9
	無回答	10	0.6
	全体	1640	100.0

Q27	5年から10年程先に住みたい場所	度数	パーセント
1	東京の都心地域(千代田、中央、港、渋谷、新宿)	189	11.5
2	選択肢1以外の東京23区	387	23.6
3	東京23区を除く首都圏(東京都、神奈川・千葉・埼玉・茨城県)	620	37.8
4	首都圏以外の大都市圏	53	3.2
5	地方都市(大都市)	73	4.5
6	地方都市(中小都市)	96	5.9
7	農山漁村部	24	1.5
8	外国	40	2.4
9	その他	12	0.7
10	特になし/わからない	146	8.9
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

Q28	近い将来の転職希望	度数	パーセント
1	是非転職したい	320	19.5
2	出来れば転職したい	403	24.6
3	出来れば転職したくない	144	8.8
4	転職するつもりは全くない	174	10.6
5	その他	57	3.5
6	特に考えていない	542	33.0
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

Q29	個人年収	度数	パーセント
1	150万円未満	478	29.1
2	150～300万円未満	343	20.9
3	300～500万円未満	531	32.4
4	500～700万円未満	148	9.0
5	700～1000万円未満	29	1.8
6	1000万円以上	9	0.5
7	わからない	102	6.2
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0

Q30	資産(不動産資産は除く)総額	度数	パーセント
1	150万円未満	857	52.3
2	150～300万円未満	254	15.5
3	300～500万円未満	182	11.1
4	500～700万円未満	78	4.8
5	700～1000万円未満	40	2.4
6	1000～1500万円未満	21	1.3
7	1500～2000万円未満	10	0.6
8	2000万円以上	15	0.9
9	わからない	183	11.2
	無回答	0	0.0
	全体	1640	100.0